# 民事訴訟法議案

102年
1
619年

民事

# 訴訟法議案

自第百三十五

司法省記錄文庫
第七百八十三號
二冊ノ内

第六號
第五架
第五

司法省
第三六七號
寄贈圖書文庫

LB500
M2-1
T.C.

四月廿日

第三章　訴訟手續

第一節　口頭辯論及ビ準備書面

第百二条　裁判所ニ於ケル争訟ニ付テノ原告被告ノ辯論ハ口頭ヨリ但シ法律ニ特ニ定メタル場合ニ在ラズ

第百三条　口頭辯論ハ書面ノ要旨ヲ陳ベテ之ヲ準備ス

第百四條　準備書面ニハ左ノ諸件ヲ掲ク

一　原告被告及ビ其法律上代人ノ氏名、身分、住所、居所、事業所

二　原告又ハ被告カ法廷ニ於テ為サント欲スル申立

三　申立ノ原因タル事実上関係ノ明細

表示ノ目的物ノ類ノ表示

XB500
M 2
1

第四　相手方ノ事実上主張ニ付テノ陳述

第五　原告又ハ被告カ事実上主張ノ証明又ハ攻撃ノ為メ用ヒントスル挙証方法ニ付テノ陳述

第六　原告被告又ハ訴訟代人ノ署名及ヒ捺印

第七　場所　年　月　日

第百六条　準備書面ニハ訴訟ノ次第ニ応ジ証書ノ原本、正本又ハ謄本ト其他総テ原告被告ノ手中ニ在ルモノニシテ書面中ニ申立ノ原由トシテ引用シタル証書ノ謄本、又添フルコト要ス

証書ノ一部分ノミヲ要用トスルトキハ其冒頭事件ニ属スル部分、終尾ニ日附、署名及ヒ印影ヲ載スル抜書ヲ添フルヲ以テ足ル

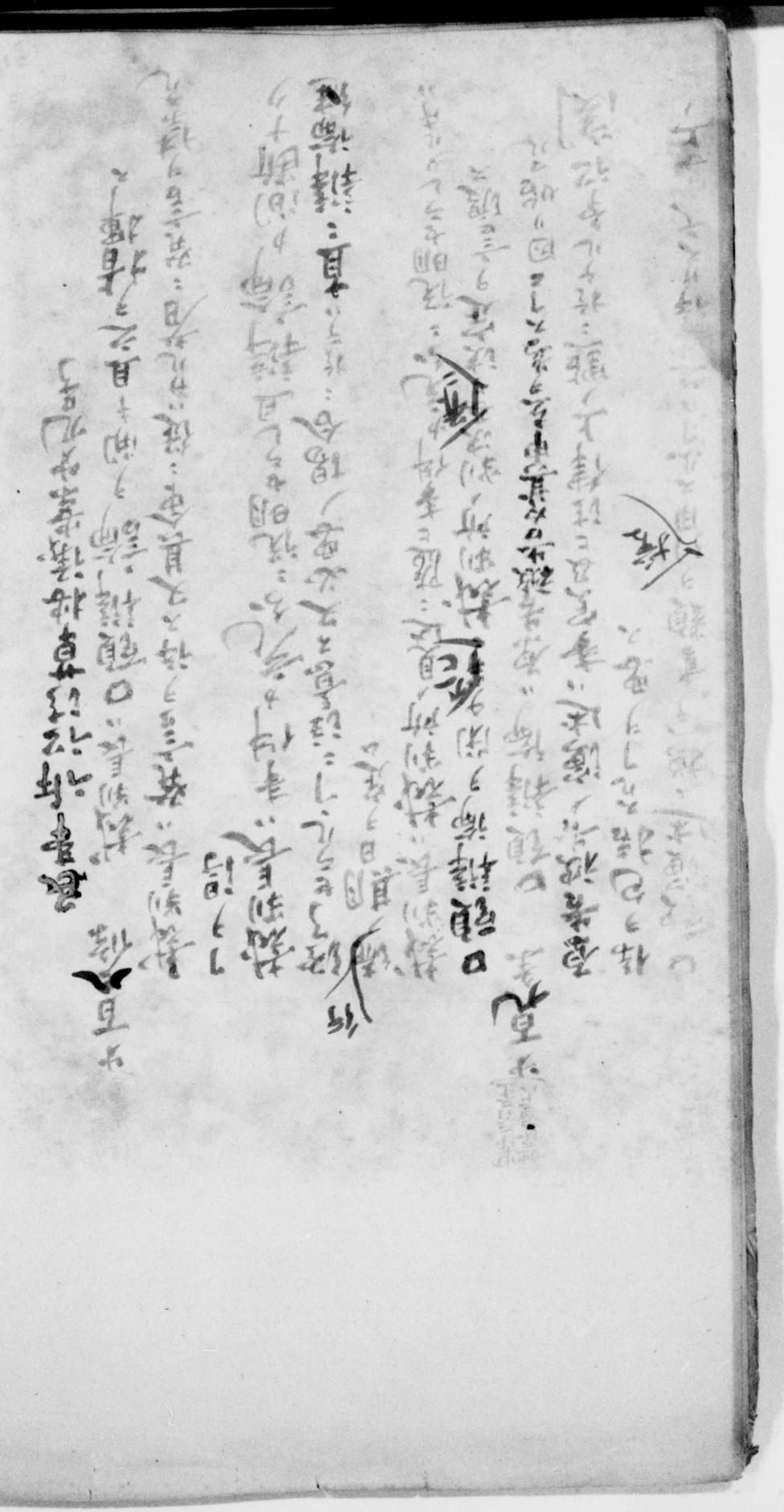
（旧第百三十九　独第百二十四）

第百七条　原告被告ハ準備書面及ヒ其付属書類並ニ相手方ニ付與スル為メノ必要ナル謄本ヲ裁判所書記局ニ差出スヘシ

若シ相手方ニ付與スル為メノ必要ナル謄本ヲ差出サヽルトキハ裁判所書記ハ其者ノ費用ヲ以テ之ヲ作ラシムヘシ

但書カ既ニ相手方ニ知レタルトキ又ハ大部ナルトキハ其但書ヲ明細ニ表示シ且相手方ニ之ヲ展閲セシメント欲スル旨ヲ附記スルヲ以テ足ル

但書ノ訂正ヲ許スコトヲ以テ足ル



趣旨ヲ要用トスル書類又ハ其一部分ニ限リ之ヲ朗読スルコトヲ得

第百十條　原告被告ハ相手方ノ主張シタル事実ニ付キ陳述

陳述ヨリ生ジタル事実ニ付キ欲スルノミニ過ギサルトキハ自己ノ

モノト看做サル

不知ノ陳述　原告又ハ被告ノ自己ノ行為ニモアラス又ハ自己

ヒノ実験シタルモノニアラサル事実ニ限リ之ヲ許ス其行サレ

タル場合ニ於テ不知ヲ以テ答ヘタル事実ハ争ヒタルモノト

看做ス

第百十一條　裁判長ハ職権上調査スヘキ点ニ関シ相手方ヲ

ヨリ起サシム疑ノ存スルトキハ其疑ヲ注意ヲ為スヿ

ヲ得

裁判長ハ問ヲ発シテ不明瞭ナル申立ヲ解明シ主張シタル

事実ノ不充分ナル説明ヲ補充シ挙証方法ヲ申出テ

及ヒ法ヲ事件ノ関係ニ於テ必要ナル陳述ヲ為サシム

裁判長ハ陪席判事ヲ

代ヘシム

原告被告ハ裁判長ニ対シ相手方ヲ問ヒ為スヿヲ

得ス

裁判長ハ許可スヘキ相手方ヲ問ヒ為スヿヲ得

裁判長ノ許可ヲ得ニ非ス共ニ為スヿヲ得ス

ニ非ス共ニ為スヿヲ得ス

第百十二條　裁判長ノ命又ハ裁判長ニ対シ

ハ陪席判事ヲ指揮シ関スル問ヲ発シタル問ヲ補充シ

不適法ナリトシテ異議ヲ述ヘタルトキハ裁判所ハ其異

議ニ付キ直チニ裁判ス

第百十三条　裁判所ハ事件ノ関係ヲ明瞭ナラシムル為メ必要ト認ムル時ハ被告ノ自身ノ出頭ヲ命スルコトヲ得

第百十四条　裁判所ハ原告又ハ被告カ同シタル証書ヲ提出スヘキコトヲ命スルコトヲ得

裁判所ハ外国語ヲ以テ作リタル証書ニ付テハ其譯書ヲ添フヘキコトヲ命スルコトヲ得

第百十五条　裁判所ハ原告被告ノ所持スル証書ニシテ事件ノ辯論及ヒ裁判ニ関スルモノヲ提出スヘキコトヲ命スルコトヲ得

第百十六条　裁判所ハ鑑定人ノ鑑定ヲ命スルコトヲ得

其手続ハ甲号ニ準シ鑑定人ノ鑑定ニ付テハ民事訴訟規則ニ依ル

第百十七条　裁判所ハ一個ノ訴ニ於テ起サレタル数個ノ請求ハ

[illegible]及ヒ反訴ニ付キ其辯論ヲ分離シテ為スヘキコトヲ命スルコトヲ得

第百十八条　同一ノ請求ニ関スル数個ノ裁判ニ関スル抗弊及ヒ防禦ノ方法ヲ提出シタル時ハ裁判所ハ其辯論ヲ其一ニ制限スヘキコトヲ命スルコトヲ得

第百十九条　裁判所ハ同一ノ人又ハ異別ノ人ノ数個ノ訴訟ニシテ其裁判所ニ繫属スルモノヲ互ニ併合スヘキコトヲ命スルコトヲ得但其訴訟ノ目的物又ハ請求ノ元因一個ノ訴ニ於テ主張セラレ得ヘキ件ニ限ル

第百二十条　裁判所ハ争訟ノ全部又ハ一分ノ裁判カ他ノ繫属スル争訟ニ於テ定マル一キ権利関係ノ成立又ハ不成立ニ繫ル時ハ他ノ争訟ノ完結スルニ至ルマテ辯論ヲ中止スヘキコトヲ命スルコトヲ得

第百二十二條　裁判所ハ民事訴訟ノ審理ノ中止ヲ命スルコトヲ得

為ス行為ノ無効ノ訴ノ嫌疑ヲ生スル件ハ刑事訴訟手続ノ終ニ至ルニテ

辯論ノ中止セラルヽ事実ノ但其訴ヲ提起セラル件行為ノ無効

ノ争訟ノ裁判ニ影響ヲ及ホス件ニ限ル

第百二十三條　裁判所ハ辯論ニ参加シ得ル者ノ場合ヲ除ク外分離併合又ハ

中止ニ関シ発セラレタル命令ヲ取消スコトヲ得

民事訴訟法草案議案第十号

第百二十三條　裁判所ハ閉廷シタルトキ辯論無効ナリトヲ得

第百二十四條　裁判所ハ辯論ニ参加シ得ル者日本語ニ通セサルトキ

ハ通事ヲ立会ハシム但帝國裁判所構成法第百三十一条

ノ場合ハ此限ニ在ラス

第百二十四條　裁判所ハ辯論ニ参加シ得ル者聾又ハ唖ナルトキハ其

文字ヲ以テ理由セシムルヲ得サル場合ニ限リ通事ヲ

立会ハシムルヲ得

第百二十六條　裁判所ハ適當演述ヲ為シ能ハサル或ハ

原告若クハ被告又ハ訴訟代人若クハ補佐人ニ其後ノ

演述ヲ禁シ且新期日ヲ定メ辯護士ヲシテ代テ演

述セシムヘキヲ命スヘシ

裁判所ニ於テ辯論ノ基トスル訴訟代人若クハ補佐人ノ

退クルヿヲ得此場合ニ於テハ新期日ヲ定ムル
ヿ
但退決定ヲ原告又ハ被告ニ送達スルヿヲ要ス
此條ノ規定ニ從ヒ為シタル命令ニ對シテハ不服ノ申
立ヲ為スヿ能ハス

第百二十七條（本條ノ規定ノ適用セス）

辯論ニ參與シタル者被告ヲ維持スル為メ辯論ノ場所ヨリ退ケラレタルトキハ中立ニ因リ本人任意ニ退キタルト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ取扱ハ帝國裁判所構成法第百二十三條ニ依リ得但帝國裁判所構成法第百二十三條ニ依リ中止シタル場合ハ此限ニ在ラス

前條ノ場合ニ於テ禁止又ハ退ケラレタル者再ヒ出頭スルトキハ前項ノ方法ヲ以テ之ヲ取扱フヿヲ得

第百二十八條

口頭辯論ニ於テハ調書ヲ作ルヿヲ要ス

調書ニハ左ノ諸件ヲ掲クルヿヲ要ス

第一　辯論ノ場所、年月日

第二　判事裁判所書記及ヒ立會フタルヿ通事ノ氏名

第三　爭訟物ノ表示及ヒ原告被告ノ氏名

第四　出頭シタル原告被告法律上代人、辯護士訴訟代人及ヒ補佐人ノ氏名若シ原告又ハ被告缺席シタルトキハ其明記

第五　公ニ辯論ヲ為シ又ハ公開ヲ禁シタルヿ及

第百二十九條

辯論ノ進行ニ付テハ其要領ノミヲ調書ニ記載スルヿヲ要ス

調書ニ記載シテ明確ニスヘキ諸件ハ左ノ如シ

第一　自認・認諾・抛棄及ビ和解
第二　明確ニスヘキ成規アル申立及ビ陳述
第三　證人及ビ鑑定人ノ供述但其供述ハ前條第一項ノ
　　レサリシトキハ又其以前ノ供述ニ異ナルトキニ限ル
第四　検證ノ結果
第五　書面ニ作リ調書ニ添附セラレタル裁判所ノ決定及ビ第
　　（全）
第六　裁判ノ言渡
附録トシテ調書ニ添附セラレ且調書ニ附録トシテ表示セラレタル書類ニ於ケル記載ハ調書ニ於ケル記載ニ同シ

（四年三百五十四　四年三百四十八）第百三十八條　前條第二項第一號乃至第四號ニ掲ケタル調書ノ部分ハ法廷ニ於テ之ヲ當事者ニ読聞カセ又ハ閲覧ノ為メ之ヲ當事者ニ提示ス

調書ニ前項ノ手續ヲ為シタルト及ビ異議アリタルトキハ其異議ヲ述シタル理由ヲ附記スルヲ要ス

又ハ異議ヲ述シタル理由ヲ附記スルヲ要ス

（四年三百十五　四年三百四十九）第百三十九條　調書ニハ裁判長及ビ裁判所書記署名捺印スヘシ

裁判長善支アルトキハ官等最モ高キ陪席判事之ニ代リ署名捺印ス區裁判所判事善支アルトキハ其裁判所書記ノ署名捺印ヲ以テ足ル

（四年三百十六　四年三百五十一）第百三十二條　受命判事若クハ受託判事又ハ區裁判所判事ノ法廷外ニ於テ為ス審問ニモ亦裁判所書記ヲ立會ハシム

前四條ノ規定ハ右ノ審問ニ付テノ調書ニ之ヲ準用ス

（四年三百十七　四年三百五十二）第百三十三條　口頭辯論ニ付キ規定シタル方式ヲ遵守

シタル丁ハ調書ニ依リテノミ之ヲ證スルヲ得
其方式ニ関スル調書ノ旨趣ニ對シテハ偽造證明
ノミヲ為スヲ許ス

備考

送達ト期日期間ノ二節ハ「モツテ」民ノ起案ニ
係ルヲ以テ例ニ倣ヒ修正ヲ加フル條項ノミヲ掲ク

第百三十四條（第一項ハ原文ノ儘第二項中已レニ屬スル
ノ六字ヲ削リ其所屬裁判所ノ七字ヲ加フ第三項
ハ原文ノ終第四項ノ末段郵便配達人ノ下ノ規定ニ
謂フル送達吏ト書ク段郵便配達人ヲ下ニ規
定スル所ノ送達吏トスト改ム

（修正ノ理由）第二項ハ構成法第百九條ノ文字
ヲ用ヒ故メタルモノナリ第四項ノ末段ニ書ク段ト

出所（モツテ民事訴訟法第百十六條ノ次ニ）

第百三十七條

アレハ全ク郵便配達人ヲ送達吏トスルノ精神ナルヲ以テ
本文ノ如ク修正ヲ加フ

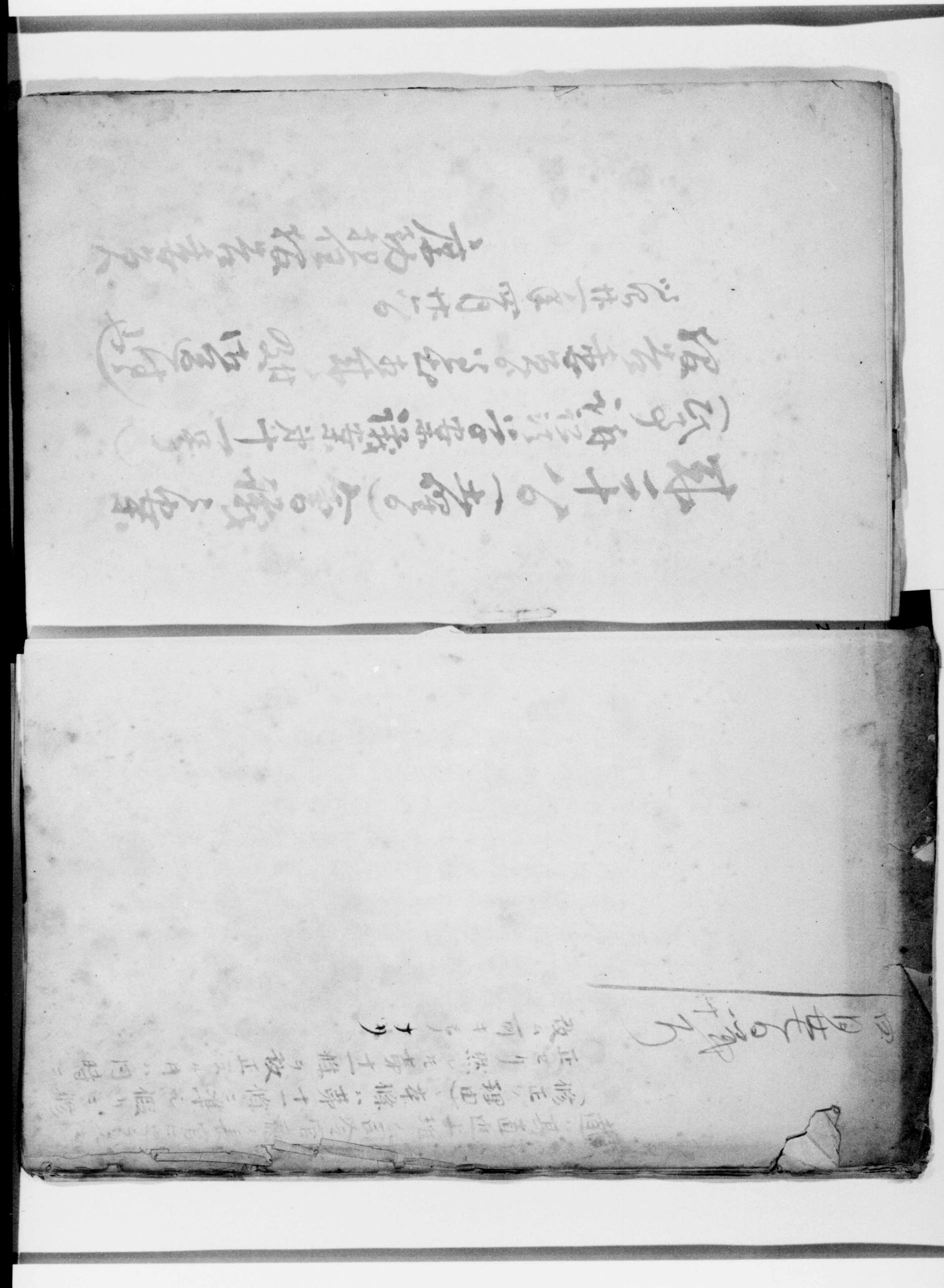
第百三十六條（第一項ハ原文ノ儘）

公又ハ私ノ無形人及ビ其資格ニ於テ訴ヘラルヘキ
ヲ得ル官社又ハ社團ニ對スル送達ハ其首長又ハ
事務擔當者ニ為スヲ以テ足ル
數人ノ法律上代人又ハ數人ノ首長若クハ事務擔當
者アル場合ニ於テハ送達ハ其一人ニ為スヲ以テ足ル

（修正ノ理由）第二項ノ冒頭ヲ改メタルハ先例
第百四條ニ依リタルモノナリ其末段ノ三項ト
為シタルノ修正ヲ加ヘタルハ其意味ヲ明瞭ニ
スルニテナリ

第百三十七條

現行下ニ定ル以下ノ事人事訴訟ニ對スル



# 民事訴訟法草案議案第十一号

第百三十七條（原文ノ儘）

第百三十八條（原文ノ儘）

第百四十條（本條第一項中代理權トアルヲ代理ヲ為スノ權ト改ム第二項ハ原文ノ儘）

（修正ノ理由）本條第一項中被告ノ代理權ヲ有スルトアルモノハ被告其者カ自ラ代理權ヲ有スルモノヽ如ク解スルノ嫌アルヲレス

テ本文ノ如ク修正ヲ加フ

第百四十八條　受訴裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ又營業場ヲモ有セサル原告又ハ被告ハ其裁判所ノ命令ニ依リ又内国ニ於テ治外法權ヲ有シ又ハ内国ニ住居ヲモ又營業場ヲモ有セサル原告又ハ被告ハ右ノ命令ナキモ其裁判所ノ所在地ニ住居シ且本邦ノ裁判權ニ服從スル第三者ノ方ニ於テ住所ヲ撰定スルヿヲ



要ス但其原告又ハ被告カ右ノ地ニ住居シ且本邦ノ裁判權ニ服從スル訴訟代人ヲ住シタルトキハ此限ニ在ラス

前項ノ命令ハ職權ヲ以テ又ハ申立ニ因リ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ為スヿヲ得此決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルヿヲ得ス

（修正ノ理由）第一項ハ意味ヲ明カニシタルマテナリ其末段ヲ二項トナシ「又」「其」ノ二字

ヲ削リ前項ノ三字ヲ加ヘ修正シタルハ他ノ例ニ倣フタルモノナリ

（原案第百三十三条 第二項 修正第百三十六条）

第百四十一條　住所撰定ノ届出ハ遅クトモ最近ノ口頭辯論ニ於テ之ヲ為シ又其前ニ書面ヲ差出ストキハ其書面ヲ以テ之ヲ為スコトヲ要ス

（第二項中「前期」ノ二字ヲ前條ト改メ又其末段送達ハ其書類ノ云々トアル送達ノ上ニ此ノ一字ヲ加フ）



（修正ノ理由）本條ヲ別條ニ改メタルハ前條ハ住所撰擇ノ方法ヲ定メタルモノニシテ自ラ事柄相分レタルヲ以テ独逸訴訟法ニ倣ヒ條ヲ分チタリ而シテ聊カ文字ヲ改メタルハ意味ヲ明カニシタルマテナリ

（原案第百三十四条 修正第百三十七条）

第百四十二條　（本條中送達ヲ為サルヘキトアルヲ送達ヲ受クヘキト改メ第百十八條トア

ルヲ第百三十九條ト改メ事務担当人トアルヲ事務担当者ト改ム

(修正ノ理由)飜譯局ト協議上ニ出スル尤精神ニ異ナルコトナシ

(旧原第百三十三条 旧第百三十八条 旧第百三十六条)

第百四十四條 送達ヲ受クヘキ人ニ其住居ニ於テ出會ハサルトキハ住居ニ於テスル送達ハ同居人ニ属スル成長シタル親属又ハ成長シタル雇人ニ之ヲ為スコトヲ得



此規定ニ従ヒ送達ヲ施行スルコトヲ得サルトキハ其送達ハ交付スヘキ書類ヲ管轄各地官廳ニ預ケ置キ其告知書ヲ住居ノ戸ニ貼付シ且成ルヘキ丈ケ近隣ニ住居スル者二人ニ口頭ニテ通知シテ之ヲ為スコトヲ得

(第三項ハ原文ノ儘)

(修正ノ理由)第一項ハ飜譯局ト協議上修正ス第二項ハ法律ノ精神ヲ明カニシタルモ

ノナリ

（原文百二十六 明治百六十八年 法律百六十八）六

第百四十四條

（本條末段此規定ハ辯護士云々トアルヲ又甚營業者辯護士ナルヤ之ニ對スル送達ハ其營業場ニ在ル筆生ニ之ヲ為スヲ得ト改ム）

（修正ノ理由）原文ニ此規定ハ辯護士ニモ亦之ヲ適用スト云々トアルハ甚タ疑ハシキ法文ナルカ故本文ノ通リ修正ス



（原文百二十七 明治百六十八年 法律百六十九）

第百四十五條

（本條中第百十八條トアルヲ第百三十五條ト改メ事務担当ノ二出會ハストアルヲ事務擔当者ニ官業場ニテ出會ハスト改ム）

（修正ノ理由）飜訳局ト協議上ニ出スル勿論精神ニ異ナルヿナシ

（原文百二十八 明治百六十八年 法律百七十九）

第百四十七條

（第一項原文中第百二十六條トアルヲ第百四十四條ト改メ第百二十七條ト

アルヲ第百四十五條ト改メ第百二十三(改メ五)條トアルヲ第百四十三條ト改メ而シテ第二項ヲ左ノ如ク修正ス

前項ノ場合ニ於テハ告知書ノ貼付ハ營業場又ハ住所ノアル之ヲ為ス

(修正ノ理由)第一項ハ是マテ各條修正ノ結果ナリ第二項ハ法文ヲ見易クシタルマテナリ



第百四十七條(原文ノ儘)

第百四十九條(第一項ノ原文中日曜日及ヒ一般ノ祭日トアルヲ裁判所ノ休日ト改メ第二項中適用スノ下ハ午後八時ヨリ午前六時マテト為シタリ第三項中部長トアルヲ裁判長ト改メ地ノ管轄區裁判所々長トアルヲ地ヲ管轄スル區裁判所ノ判事ト改ム第四項ハ原文ノ儘第五項ノ末段ハ効力アリトアル

ヲ和ニ限リ効力アリト改ム

（修正ノ理由）第一項ハ構成法第百四十四條ニ定メラレタル休日ヲ將テレステ裁判所ノ休日ト為シ之ヲ修正セリ第二項中夜間ヲ午後八時ヨリ午前六時マテト定メシハ獨逸法ノ如ク夏季ト冬季ト時間ヲ異ニスルトハ甚タ煩ハシク且人民モ誤リ易キ故獨逸法ニ於テ定メシ夏冬ノ中間ヲ取リ之ヲ



定メタリ第三項ハ構成法ニ基キタルモノナリ第四項ノ末段ハ法文ヲ強クシタルマテナリ

第百四十九條　送達ニ付テハ之ヲ施行スル吏員ハ送達ノ地年月日時并ニ方法及ヒ受取人ノ受取ノ証并ニ送達吏ノ署名及ヒ捺印ヲ具備スル証書ヲ作リ1ヲ要ス

（第二項ハ原文ノ儘第三項中第百二十三條第

三項トアルヲ第百四十一條第二項ト改メ官吏トアルヲ吏員トト改ム

（修正ノ理由）第一項ハ送達ニ付キ証書ヲ作ル方法ヲ明カニシタルモノナリ第三項ハ前條項ヲ修正シタル結果ナリ

二

第百五十一條　外國ニ在テ治外法權ヲ有スル本邦官吏及ヒ其家族微都ニ對シ外國ニ於テ施行スヘキ送達ハ外務大臣ニ囑託シテ之ヲ為ス

（修正ノ理由）第十二條ヲ修正シタル法文ニ基キタルモノナリ尤本條ノ修正ヲ採用セラルヽトキハ第十二條中ノ括弧ヲ省ク精神ナリ



二

第百五十二條　（本條冒頭ノ其他トアルヲ前條ノ外ト改ムル以下原文ノ儘）

（修正ノ理由）原文ニ其他ト云フトキハ甚タ漠

(448)



然トシテ解シ易カラサル故前條ノ外ト改メタリ

民事訴訟法草按議案第十二号

第百五十三條　外國ニ在留スル軍隊又ハ出陣ノ軍隊又ハ役ニ服シタル軍艦（以下原文ノ儘）

（修正ノ理由）原文ノ冒頭ニ通常ハ兵営地外ニ在ル軍隊トアル十二字ヲ削リ外國ニ云ト改メタルモノハ原文ノ如クニテハ彼ノ野營演習ノ場合抔モ本條中ニ包含スヘキモノヽ如ク誤解ヲ生スルノ恐レアルヲ

以テナリ尤起案者ハ獨逸訴訟法第百八十四條ニ倣ヒ「モビーレン」ナル語ヲ用ヒントス欲スレ共日本ノ陸軍省ニ於テ此語ヲ用ヒ来ル否ヲ辯ヘサルカ故原文ノ如キ考案ヲ起シタリト云フ然ルニ陸軍省ニ於テハ昨今獨逸語ノ「モビール」ナル文字ヲ假リニ「動員ノ命」ト譯シ用ヒ始メタレ共未タ確定セスト依テ不日陸軍省ニ於テ右ノ語ヲ定メ之ヲ用ヒラルヽニ決スル時ハ本条モ尚修正ヲ加フヘキモノナリ

第百五十三條（第一項中部長トアル二字ヲ裁判長ト改ム餘ハ原文ノ儘）

（修正ノ理由）先例ニ倣ヒタルモノナリ

第百五十四條（原文ノ儘）

第百五十五條（第一項第二項ハ原文ノ儘第三項ノ末原告被告ノ下ハ雙方トアル三字ヲ削

ル

（修正ノ理由）原告被告ト云フ件ハ總テ原被雙方ヲ指スノ文例ナルカ故本條ニ限リハ雙方ナル字ヲ加フヘキ必要ヲ見ス

第百五十六條（第一項中又一箇又ハ數箇ハ新聞紙ヲ以テスル告示ハ場合ニ於テハ按書ハ最後ノ掲載ヨリノ三十五字ヲ削ル其餘原文ノ儘）

（修正ノ理由）新聞紙ニ掲ケタル件其最後ノ掲載ヨリ起算スヘキモノトスル件ハ外國ノ新聞紙等ニ掲ケタル場合ニ於テハ最後ノ掲載ヲ知ルニ煩難ヲ來スヘキ故右數字ヲ削リタリ

第百五十七條　期日ハ裁判長日及ヒ時ヲ以テ之ヲ定ム

（修正ノ理由）原文中スル期日ハ定メ以下ヲ

削リ本文ノ如ク修正シタルモノハ文意ヲ明カニシタルマテナリ

第百五十八條　日曜日及ヒ一般ノ祝祭日ヲ期日トシテ定ムルハ已ムヲ得サル場合ニ限リ之ヲ為スヲ得

（修正ノ理由）期日ハ云々之ヲ日曜日及ヒ一般ノ祭日ニ定ムト云フ件ハ命令法ノ如ク見ルシ此本條ハ許可法ニ為スヘキモノト思考スルヲレスヲ本文ノ如ク修正ス



第百五十九條　必要ナル呼出ハ裁判長ノ命ニ從ヒ裁判所書記正本ノ送達ヲ以テ之ヲ為ス

（第二項ハ原文ノ儘）

（修正ノ理由）第一項中ハ部長ノ命ニ從ヒノ八字及ヒニ因テ必要ナル呼出ノ九字ヲ削リ本條ノ如ク修正シタルモノハ本項ハ呼出シノ一ヲ主トシテ掲ケタルモノナルカ

故必要ナル呼出ノ數字ヲ冒頭ニ出シタリ

第百六十條　本條但書中臨檢ノ下ニヲ為シ又ハノ五字ヲ加ヘ審問ノ下ノ又ハノ二字ヲ削ル

（修正ノ理由）本條ハ唯趣意ヲ明瞭ニシタルマテナリ

第百六十一條　第一項ハ原文ノ儘

期日ハ原告又ハ被告カ其期日ノ終リマテニ

辯論ヲ為サヽルトキハ之ヲ怠リタルト看做ス

（修正ノ理由）第二項中呼上ハ際ニモ又審問ノ九字及ヒ結前ニモ出頭ヲ申込マサノ十一字ヲ削リ本文ノ如ク修正シタルハ意味ヲ明カニシタルモノナリ

第百六十二條　裁判官ハ定ムル期間ノ經過ハ期間ヲ定メタル書類ノ送達ヲレテ始マリ又其送達ヲ要セサル場合ニ於テハ（以下原文ノ

（儘）

（修正ノ理由）原文中所又ハ部長ニ於テ長短ヲノ十一字及ヒ此ノ如キハ五字ヲ削リ本文ノ如ク修正シタルハ独逸訴訟法第百九十八條ニ倣ヒ贅文ヲ省キタルモノナリ

（原第百四十五條 改正第百六十三條 独逸第百九十八條）第百六十三條（本條中訴訟法上ノ四字ヲ削リ其餘ハ原文ノ儘）

（修正ノ理由）原文中訴訟法上ノ四字ヲ本條



ニ限リ用ユヘキ必要ヲ見サルノミナラス反テ疑義ヲ生スル嫌アルヲ以テ之ヲ省キタリ

（原第百六十四條 改正第百六十四條 独逸第二百）第百六十四條（第一項ノ末段ヲ「今年ハ法律上ノ暦ニ従フ」ト改メ第二項中「一般ノ祭日」トアルヲ「一般ノ祝祭日」ト改ム）

（修正ノ理由）第一項中ハ長サノ三字及ヒ代ハ定マルノ五字ヲ削リ従フノ二字ヲ加ヘ

タルハ治罪法ニ照シ修正シタリ又第二項ニ祝ノ一字ヲ加ヘタルハ先例ニ倣フ

（原第百四十五條 明治百五十四年 四百五十九）

第百六十五條　（第一項ノ冒頭ヲ法律上ノ期間ハト改メ以下原文ノ儘）

（修正ノ理由）第一項ノ原文ニ此法律ニ於テ定メタル期間ハトアルヲ原文ノ如ク修正シタルハ文詞ヲ簡單ニシタルマテナリ

（原第百四十六 明治三十五年 一）

第百六十六條　（第一項ハ原文ノ儘第二項第三



項ハ其原文ヲ削リ更ニ第二項第三項ヲ九ノ如ク設定ス）

前項ノ規定ハ不可変期間及ヒ休暇事件ニ付テノ期間ニハ之ヲ適用セス

不可変期間ハ此法律ニ於テ不可変期間トシテ掲ケタル期間ヲ謂フ

（修正ノ理由）独逸訴訟法ノ如ク控訴、上告、抗告、故障及ヒ再審等ノ期間ヲ不可変期間ト

シテ訴訟法中ニ明記スル件ハ實際上甚タ
便利ナルヲ以テ独法ニ倣ヒ修正ヲ加ヘタ
リ
又休暇事件ノ説明ヲ此法律ニ掲ケサルモ
構成法ニ明カナル故之ヲ掲ケス

民事訴訟法草案議案第十三号

第百六十七條　期日ノ変更、辯論ノ延期、辯論續行ノ為メニスル期日ノ定ハ申立ニ因リ又ハ職権ヲレスヲ之ヲ為スヲ得但申立ニ因シル期日ノ変更ハ合意ノ場合ヲ除ノ外顕著ナル理由アルニアラサレハ之ヲ許サス

（修正ノ理由）原文第一項ヲ本文ノ如ク全ク改正シテ之ヲ一條ニ為シタルモノハ原文

ハ甚タ解シ難キ所アルニ付獨訴訟法第二百六條ヲ斟酌シテ修正ヲ加ヘ而シテ第二、三項ハ少シク相変ルヲレステ別條トス

原告被告ノ合意ヲレステ之ヲ短縮又ハ伸張スルヿヲ得

（原第百四十九ノ二以下総第二百三）

## 第百六十八條

期間ハ不可変期間ヲ除クノ外裁判官ノ定ムル期間及ヒ法律上ノ期間ハ合意ナキモ申立ニ因リ顕著ナル理由アルトキハ之ヲ短縮又ハ伸張スルヿヲ得然シ此法律上ノ期間ノ短縮又ハ伸張ハ此法律ニ於テ特ニ定メタル場合ニアラサレハ之ヲ許サス

期間ノ伸張ニ在テハ新タナル期間ハ前期間満了ヨリ之ヲ起算ス

（修正ノ理由）不可変期間ヲ法文ニ顕ハシ且前條ヲ修正シタル上ハ本條モ亦独訴訟法第二百二條ノ如キ法文ヲ加ヘサルヲ得ス

依テ本文ノ如ク修正セリ又第三項中但書ヲ削リタルハ必要ヲ見サルカ故ナリ

第百六十九條　期日ノ変更又ハ期間ノ短縮若クハ伸張ニ付テノ申請ノ理由ハ之ヲ疏明スルヲ要ス其申請ハ裁判所書記ニ口述シテ其調書ヲ作ラシムルヲ得

申請ニ付テノ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ為スヲ得



（原第二項ハ原文ノ儘）期日ノ変更又ハ期間ノ伸張ニ付テノ申請ヲ却下スル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルヲ得ス

（修正ノ理由）第一項ノ末ニ其申請云々ヲ加ヘ又ハ新タニ第二項ヲ置キタルハ先例ニ倣ヒタルモノナリ期日ノ変更云々ノ末項ヲ新タニ加ヘタルハ独訴訟法第二百三條

ノ末項ノ必要ト感シタルカ故ナリ

第百七十條（本條中部長トアルヲ裁判長ト改メ「受命判事」トアル下ニ又ハ受訴判事ノ六字ヲ加フ）

（修正ノ理由）先例ニ倣ヒタルモノナリ

本章第四節第五節モ亦第一節ノ例ニ倣ヒ全文ヲ掲ク

第四節　懈怠ノ結果及ヒ原狀回復

事変ニ因リ不可変期間ヲ遵守スルヿヲ妨ケラレタル原告又ハ被告ニハ申立ニ因リ原状回復ヲ許與スベシ

原告又ハ被告カ故障ノ期間ヲ懈怠シタルトキハ其過怠ニアラスシテ懈怠判決ノ送達ヲ知ラサリシ場合ニ於テモ亦之ニ原状回復ヲ許與ス

（独第三百三十三条）第百七十三條　原状回復ハ十四日ノ期間内ニ之ヲ申立ツルヿヲ要ス

期間ハ障碍ノ止ミタル日ヲ以テ始マリ其期間ハ原告被告ノ合意ニ因リ之ヲ伸フルヿヲ得ス

懈怠シタル不可変期間ノ終ヨリ起算シテ一个年ノ満了ノ後ハ最早原状回復ヲ申立ツルヿヲ得ス



（独第三百三十五条 仏第二百二十四条）第百七十四條　原状回復ハ追完シタル訴訟行

為ニ付キ裁判ヲ為スノ権アル裁判所ニ書面
ヲ差出シテ之ヲ申立ツ
其書面ニハ左ノ諸件ノ掲クルヿヲ要ス
第一　原状回復ノ原由タル事実
第二　原状回復ノ疏明ノ方法
第三　懈怠シタル訴訟行為ノ追完
即時ノ抗告ノ提出ヲ懈怠シタル中ハ原状回
復ノ申立ハ不服ヲ申立テラレタル裁判ヲ発
シタル裁判所ニモ又抗告裁判所ニモ之ヲ為



スヿヲ得

（独逸三百十六）第百七十五條　原状回復ノ申立ニ付テノ訴訟
手續ハ追完シタル訴訟行為ニ付テノ訴訟手
續ト之ヲ併合ス然レ𪜈裁判所ハ訴訟手續ヲ
先ツ申立ニ付テノ辯論及ヒ裁判ノミニ制限
スルヿヲ得
申立ノ許否ニ付テノ裁判及ヒ裁判ノ不服申
立ニ付テハ追完シタル訴訟行為ニ付キ此等

ノ関係ニ於テ行ハルヽ成規ヲ適用ス然シ此
申立ヲ為シタル原告又ハ被告ハ故障ヲ為ス
ノ権ナシ
原状回復ノ費用ハ相手方ノ為サル異議ニ
由リ生セサリシモノニ限リ申立人ノ負擔ニ
帰ス

第五節　訴訟手續ノ中断及ヒ中止

第百七十六條　原告又ハ被告ノ死亡シタル場



合ニ於テハ承権人カ訴訟手續ヲ受継クマテ
之ヲ中断ス
裁判所ハ申立ニ因リ受継ヲ遅滞シタル承権
人ヲ其受継及ヒ本事件ノ辯論ノ為メ呼出ス
但受継ノ遅滞ハ申立人之ヲ疏明スシ
呼出ハ承権人其者ニ之ヲ送達ス
承権人期日ニ出頭セサルトキハ申立ニ因リ其
主張セラレタル承権ヲ自認シタルモノト看

倣シ且裁判所ハ懈怠判決ヲ以テ承権人カ訴訟手続ヲ受継キタリト言渡ス又本事件ノ辯論ハ故障期間ノ満了シタル後始メテ之ヲ為シ又ハ其期間内ニ故障ヲ申立テタル中ハ其完結ノ後始メテ之ヲ為ス

（独逸三百八）第百七十七條　原告又ハ被告ノ財産ニ付キ破産ノ開始シタル場合ニ於テ訴訟手続カ破産財團ニ関スル中ハ破産ニ付キ行ハルヽ規定



ニ従ヒ之ヲ受継キ又ハ破産手続ヲ解止スルマテ之ヲ中断ス

（独逸三百九）第百七十八條　原告若クハ被告カ訴訟能力ヲ失ヒ又ハ其法律上代人カ死亡シ又ハ其代理権カ原告若クハ被告ノ訴訟能力ヲ得ル前ニ消滅シタル中ハ訴訟手続ハ法律上代人又ハ新法律上代人カ其任設ヲ相手方ニ通知シ又ハ相手方カ訴訟手続ヲ續行セントト欲スルヿ

ヲ其代人ニ通知スルマテ之ヲ中断ス

（独ゲ三百廿二）第百七十九條　原告又ハ被告ノ死亡ニ因リ訴訟手續ヲ中断スル場合ニ於テ訴訟手續ノ受継ニ関シテハ遺産ニ付キ保管人カ任設セラルヽ時ハ第百七十八條又遺産ニ付キ破産カ開始スル時ハ第百七十七條ノ成規ヲ適用ス

（独ゲ三百廿三）第百八十條　戰爭又ハ其他ノ事故ニ因リ裁判所ノ行務ヲ止メタル時ハ此情況ノ継續スル

間訴訟手續ヲ中断ス

（独ゲ三百廿三）第百八十一條　原告若クハ被告死亡シ又ハ訴訟能力ヲ失ヒ又ハ其法律上代人ノ欠缺スル場合ニ於テ（第百七十六條第百七十八條）訴訟代人ニ因リ代理カ為サレタル時ハ委任消滅ノ通知ニ因リ訴訟手續ノ中断ス

訴訟手續ノ受継ニ付テハ第百七十六條第百七十八條第百七十九條ノ成規ニ従フ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

第八十四回

第八十四回　八十三帙　再次千鍵中止　中途小說將成

鍵、中比了命々ル一ツ間

賊惟ノ以テ陽明ノ陣ヲ敗セシ心。ゾ。

地ニ在ル時ハ辺所城川所上ノ人間ノ絶ヲ一ツ心ニ

又ニ四ツ以ル城地機ノ所ゾ。張ヲ在ノ小山ノ絶ヲ

ハルニ世人ハ始ノ城ノ所ニ中ニ因リ人。

第八十五回

第八十五回　八十六帙　再次千鍵中止　中途小說將成

人下ル時ハ以テ城中ノ人ノ飾　兵也ノ。城ヲ破時ハ說ニ

判所ニ之ヲ提出スベキ書中情ハ裁判所書記ニ口述シテ調書ヲ作ラシムルヿヲ得

裁判ハ口頭辯論ヲ経スシテ之ヲ為スヿヲ得

第百八十四條　訴訟手續ノ中斷及ビ中止ハ各期間ノ經過ヲ止メ及ビ中斷又ハ中止ノ終リタル後更ニ全期間ノ經過ヲ始メシムルノ効力ヲ有ス

中斷及ビ中止ヲ本事件ニ付キ原告又ハ被告ノ為シタル訴訟行為ハ他ノ一方ニ對シ法律上ノ効力ヲ有セズ

口頭辯論ニ基キテ為スベキ裁判ノ言渡ハ此辯論ノ終結シタル後ニ始マリタル中斷ニ因リ妨ケラルヽヿ無シ

第百八十五條　中斷シ又ハ中止シタル訴訟手續ノ受継及ビ此節ニ他載シタル通知ノ為ス又ハ被告ヨリ其書面ヲ受取裁判所ニ差出シ

裁判所ハ相手方ニ之ヲ送達スヘシ

第百八十六條　原告被告ハ訴訟手續ヲ休止スヘキヿヲ合意スルヿヲ得其合意ハ不可変期間ノ経過ニ影響ヲ及ボサス

口頭辯論ノ為メノ期日ニ於テ原告被告双方カ出頭セサル時ハ訴訟手續ハ其一方ヨリ口頭辯論ノ為メ更ニ期日ヲ定ムヘキヿヲ申立ルマテ之ヲ休止ス

第百八十七條　一年内ニ前項ノ申立ヲ為サヽル時ハ其訴及ヒ反訴ヲ取下ケタルモノト看做ス

第百八十七條　此節ノ成規又ハ其他此法律ノ規定ニ基キ訴訟手續ノ中止ヲ命スル裁判又ハ之ヲ否ム裁判ニ對シテハ抗告ヲ為スヿヲ得但抗告ノ場合ニ於テハ即時ノ抗告ヲ為スヿヲ得

次ノ一節ハ「モリセ」氏ノ起案ニ係ルモノト思

案ニ依リタルモノト又新タニ加ヘタル條項ト混同シタル節ナルカ故ニ先例ニ倣ヒ逐條全文ヲ掲ク

第二編　第一審ノ訴訟手續

第一章　地方裁判所ノ訴訟手續

第一節　判決ニ至ルマテノ訴訟手續

第百八十八条　訴ノ提起ハ訴狀ヲ裁判所ニ差出シテ之ヲ為ス

訴狀ニハ左ノ諸件ヲ掲クルヿヲ要ス

第一　原告被告及ヒ裁判所ノ表示

第二 起シタル請求ノ目的物及ヒ其請求ノ原由ノ定マリタル明示

第三 定マリタル申立

其他訴状ニハ裁判所ノ管轄カ争ハル物ノ價額ニ繋ルトキハ定マリタル金額ニアラサル争ハル物ノ價額ヲ掲クヘシ

準備書面ニ関スル一般ノ規定ハ訴状ニモ亦之ヲ適用ス

第百八十九条 同一ノ被告ニ對スル原告ノ數個ノ請求ハ其論ステノ請求ニ付キ受訴裁判所カ管轄権ヲ有シ且同一種類ノ訴ハ手續カ許サレタルトキハ一個ノ訴ニ併合スルヿヲ得但民法ノ規定ニ反スルトキハ此限ニ在ラス

第百九十条 訴状カ第百八十八条第一号乃至第三号ノ規定ニ適セサルトキハ相当ニ定メテ其欠缺ヲ補正スヘキヿヲ命ルヘキ期間内ニ

今ヲ以テ命ジ又原告カ此命ニ従ハサル時ハ
其期間ト満了後訴状ヲ差戻スヿヲ要ス
其差戻ノ命令ニ對シテハ即時ノ抗告ヲ為ス
ヿヲ得

第百九十一條　訴状カ第百八十八条第一号乃
至第三号ノ規定ニ適スル時ハ之ヲ被告ニ送
達スルヿヲ要ス

第百九十二條　口頭辯論ノ期日ト訴状ノ送達
トノ間ニ少クトモ二十日ノ期限ヲ存スルヿ
ヲ要ス

送達ヲ外国ニ於テ為スヘキ時ハ裁判長相當
ノ期限ヲ定ム

第百九十三条　争訟物ノ権利拘束ハ訴状ノ送
達ニ因テ生ス

権利拘束ハ左ノ効力ヲ有ス

第一　権利拘束ノ継続中争訟物カ原告又ハ

被告ヨリ他ノ裁判所ニ於テ拘束セラルヽ
ヤハ相手方ハ権利拘束ノ抗辯ヲ起スヿヲ
得

第二　受訴裁判所ノ管轄ハ争訟物ノ價額ノ
変更、住所ノ変更又ハ其他管轄ヲ定ムル状
況ノ変更ニ因テ動カサレス

第三　原告ハ訴ノ原由ヲ変更スルノ権利ナ
キ但被告カ変更セラレタル訴ニ付キ本事
件ノ口頭辯論ヲ為ス前其変更ニ對シ異議ヲ
述ヘサル片ハ此限ニ在ラス

第百九十四條　原告カ訴ノ原由ヲ変更セスシ
テ左ノ諸件ヲ為ス片ハ被告ハ異議ヲ述フル
ヿヲ得ス

第一　事実上又ハ法律上ノ申述ヲ補充シ又
ハ更正スルヿ

第二　本事件又ハ附帯ノ請求ニ付キ訴ノ申

主ヲ擴張シ又ハ制限スル丶

第三　最初求メラレタル物カ後ニ滅盡又ハ
変更シタルニ因リ其物ニ換ヘテ他ノ物又
ハ賠償ヲ求メル丶

第百九十五条　訴ノ原由ノ変更カ存セサルトス
ル勅判ニ對シテハ服ヲ申立ツル丶ヲ許サ
ス

第百九十六条　訴ノ全部又ハ一分ニ口頭辯論

ノ終結ニ至ルマテハ被告ノ義務ヲ減ト又本
事件ニ付キ被告ノ第一口頭辯論ノ始マルマ
テハ被告ノ義務ヲクシテ之ヲ取下クル丶ヲ
得

訴ノ取下ハ口頭辯論ノ際之ヲ述ヘサルトキハ
書面ヲ以テ之ヲ為ス又訴狀カ既ニ送達セラ
レタル場合ニ於テハ書面ハ之ヲ被告ニ送達
スルヿヲ要ス

五日十五日決了

適法ナル取下ハ権利拘束ノ効力ヲ消滅セシムルノ結果ヲ生ス

訴ヲ再ヒ起サヽルヿハ被告ハ前訴ノ費用ノ辯償ヲ受クルニ至ルマテ應訴ヲ拒ムヿ

第十三日（金曜日）會議ヲ開キ（議案）

請願法案提議ノ件（第十五号）部

告書ノ件

付ス

法律第一号

五日十五日

[illegible]

民事訴訟法草案議案第十五號

第百九十七條　訴狀ノ送達ノ際被告ハ十四日ノ期間内ニ答辯書ヲ差出スヘキヿヲ命令ヲ以テ催告セラルヽヿヲ要ス

答辯書ニハ準備書面ニ關スル一般ノ成規ヲ適用ス

第百九十八條　訴カ其管轄裁判所ニ於テ權利拘束ト為リタルトキハ被告ハ原告ニ對シ同一

ノ裁判所ニ反訴ヲ起スヿヲ得

然レ𪜈財産権上ノ請求ニアラサル請求ニ係ル反訴又ハ其目的物ニ付キ専属管轄カ規定セラレタル反訴ハ若シ其反訴カ本訴ナルキハ裁判所ニ於テ管轄権ヲ有スヘキ場合ニアラサレハ之ヲ為スヿヲ許サス

反訴ニ對シテハ更ニ反訴ヲ為スヿヲ得ス

第百九十九條　反訴ハ答辯書若クハ特別ノ書面ヲ以テ又ハ口頭辯論中相手方ノ面前ニ於テ口頭ヲ以テ之ヲ起スヿヲ得

然レ𪜈答辯書差出ノ期間内ニ差出シタル書面ヲ以テ起サヽル反訴ハ被告ノ請求ノ全部又ハ一分ト相殺ヲ為ス𪜈キ場合ニ於テ同時ニ被告カ自己ノ過失ナクシテ以前其反訴ヲ起ス能ハサリシヿヲ疏明スル𪜈キニアラサレハ之ヲ為スヿヲ許サス

原第百十二

第二百條　訴ニ關スル此法律ノ成規ハ反訴ニ之ヲ適用ス但其規定ニ因リ殊異カ生スルトキハ此限ニ在ラス

原第百十三

第二百一條　裁判長ハ申立ニ因リ其命令ヲ以テ第百九十七條ニ定メタル期間ハ之ヲ相當ニ伸長シ又第百九十二條ニ定メタル期限ハ切迫ナル危險ノ場合ニ於テハ二十四時マテ之ヲ短縮スルヿヲ得



原第百十二但第二百三十五第二百四十五

第百六十五條ニ掲ケタル成規ハ此規定ニ因テ動カサルヽヿ無シ

第二百二條　原告被告ノ各方ハ訴狀又ハ答辯書ニ掲ケサリシ事實上ノ主張若クハ擧證方法若クハ申立ニシテ之ニ付キ相手方カ豫メ穿鑿ヲ為スニアラサレハ陳述ヲ為スヿ能ハスト豫知スルモノヲ口頭辯論ノ前其書面ヲ差出スヘシ但相手方ヘ其書面ヲ送達スルヿ

ノ時間及ヒ相手方ヲシテ必要ナル穿鑿ヲ為スノ時間ヲ得セシムルヿヲ要ス

口頭辯論ノ延期ヲ為スヿ裁判所ハ爾後必要ナル準備書面ヲ差出スヘキ為メノ期間ヲ定ムルヿヲ得

（旧第二百三十六）第二百三條　口頭辯論ハ一般ノ成規ニ從ヒ之ヲ為ス

（旧第二百三十七）第二百四條　妨訴ノ抗辯ハ本事件ニ付テノ被告ノ辯論前ニ同時ニ之ヲ提出スヘシ

左ニ掲クルモノヲ妨訴ノ抗辯トス

第一　訴訟ヲ許スヘカラサルノ抗辯

第二　裁判所管轄違ノ抗辯

第三　權利拘束ノ抗辯

第四　訴訟能力ノ欠缺又ハ法律上代理ノ欠缺ノ抗辯

第五　訴訟費用ノ為メノ保證欠缺ノ抗辯

第六　爭訟ノ再起ニ付キ前訴訟手續ノ費用ヲ辯償スヘキニ未タ之ヲ辯償セサルノ抗辯

本事件ニ付キ被告ノ口頭辯論ノ始マリタル

後ハ妨訴ノ抗辯ハ被告ニ於テ有効ニ抛棄ス
ルヿヲ得ヘカラサルモノナル片又ハ被告過
失ナクシテ本事件ノ辯論前其抗辯ヲ主張ス
ル能ハサリシヿヲ疏明スル片ニ限リ之ヲ主
張スルヿヲ得

第二百五條　被告カ妨訴ノ抗辯ニ基キ本事件
ノ辯論ヲ拒ム片又ハ裁判所ハ申立ニ因リ若
クハ職權ヲ以テ別ニ辯論ヲ命スル片ハ其抗



辯ニ付キ別ニ辯論ヲ為シ及ヒ判決ヲ以テ裁
判スヘシ

妨訴ノ抗辯ヲ棄却スル判決ハ上訴ニ關シテ
ハ終局判決ト看做ス但裁判所ハ申立ニ因リ
本事件ニ付キ辯論ヲ為スヘキヿヲ命スルヿ
ヲ得

第二百六條　攻擊及ヒ防禦ノ方法(抗辯、反訴、再
抗辯等)ハ第百九十九條ノ規定ニ依シル制限

ヲ以テ判決ニ接着スル口頭辯論ノ終結ニ至ルマテ之ヲ主張スルヿヲ得

然シモ裁判所ハ時機ニ後クレテ攻擊及ヒ防禦ノ方法ヲ提出シタルニ因リ爭訟ノ完結カ遲延セラレタルトキハ裁判官ノ心證ニ因リ遲延ノ責アリト為サレタル勝訴ノ原告又ハ被告ニ訴訟費用ノ全部又ハ一分ヲ課スルヿヲ得



第二百七條　被告ヨリ時機ニ後クレテ提出シタル防禦ノ方法ハ裁判所カ若シ之ヲ許スニ於テハ訴訟ヲ遲延スルニ至ルヘク且被告ハ訴訟ヲ遲延セシムルノ故意ヲ以テ又ハ甚シキ怠慢ニ因リ更ニ早ク其提出ヲ為サヽリシノ心證ヲ得タル時ハ申立ニ因リ之ヲ却下スルヿヲ得

第二百八條　判決ニ接着スル口頭辯論ノ終結

ニ至ルマテハ爭訟ノ裁判ノ全部又ハ一部カ訴訟ノ經過中爭ヒトナリタル權利關係ノ成立又ハ不成立ニ繫ルキハ原告ハ訴ノ申立ノ擴張ニ因リ又被告ハ反訴ノ提起ニ因リ判決ヲ以テ其權利關係ヲ確定セラレンヿヲ申立ツルヿヲ得

第二百九條　訴狀又ハ其他ノ準備書面ニ於テ主張セラレサル請求ノ權利拘束ハ其請求カ口頭辯論ニ於テ主張セラレタル時ヲ以テ始マル

第二百十條　原告被告ノ各方ハ事實上ノ主張ヲ證明シ又ハ之ヲ辯駁セン為メニ用ヒントスル擧證方法ヲ申出テ且相手方ヨリ申出タル擧證方法ニ付キ陳述スルヿヲ要ス

第二百十一條　擧證方法及ヒ擧證抗辯擧證方法ノ適法、法律上ノ効力及ヒ信用ニ對スル抗

辯ハ判決ニ接着スル口頭辯論ノ終結ニ至ルマテ之ヲ主張スルヿヲ得

舉證方法及ヒ舉證抗辯ノ時機ニ後クレタル提出ニ付テハ第二百六條第二項及ヒ第二百七條ノ規定ヲ準用ス

第十三節 本案ノ辯論

民事訴訟法草案議案第十六号

第二百十二條　採証及ビ挙証決定ニ依シル特別採証手續ノ命令ハ第四節乃至第十節ノ成規ニ依ル

第二百十三條　原告被告ハ争訟ノ関係ヲ表明シ採証ノ結果ニ付キ辯論ヲ為スヿヲ要ス

採証ヵ受命判事又ハ受託判事ノ面前ニ於テ為サシリルトキハ原告被告ハ採證ニ関スル審問調書ニ基キ其結果ヲ演述スルヿヲ要ス

第二百十四條　裁判所ハ民法又ハ此法律ノ規定ニ反セサル限リハ辯論ノ全旨趣及ヒ或ル採證ノ結果ヲ斟酌シ事実上ノ主張ヲ真実ナリト認ムヘキヤ否ヲ自由ナル心證ヲ以テ判

定スルヲ要ス

第二百十五條　裁判所ニ在リテ顕著ナル事実ハ之ヲ證スルヲ要セス

第二百十六條　外國ノ現行法又ハ内國ノ地方慣習法、商慣習及ヒ規約ハ之ヲ證ス一ヒ裁判所ハ原告被告カ其証明ヲ提出スルト否トニ拘ハラス職權ヲ以テ其必要ナル取調ヲ為スヲ得

第二百十七條　此法律ノ規定ニ依リ事実上ノ主張ヲ疏明セラルヘキ中ハ裁判官ノ意見ニ於テ其主張ヲ眞実ナルヘシト認メシムヘキ證方法又ハ證証原由ヲ以テ足ル但即時ニ為スヲ得サル保證ハ之ヲ許サス



第二百十八條　裁判所ハ事件ノ如何ナル程度ニ在ルヲ問ハス自ラ又ハ受命判事若クハ受託判事ニ依リ爭訟又ハ或ル爭點ノ和解ヲ試ムルノ權アリ和解ヲ試ムル為メニハ原告被告ノ自身ノ出頭ヲ命スルヲ得

第二百十九條　申立ハ準備書面ニ依リ之ヲ朗讀スルヲ要ス

準備書面ハ交付要セラレス又ハ申立カ其書面中ニ掲ケラレサルモノニ限リ調書ニ附録ト為シテ添附スヘキ書面ヲ差出シ之ヲ朗讀スルヲ要ス

重要ノ點ニ於テ以前朗讀セラレタルモノトヒ異ナル申立ニ付テモ亦前項ニ同シ

此成規ヲ遵守セサルトキハ申立アラサルモノト看做ス

第二百二十條　前條ノ申立ヲ除クノ外準備書面ニ掲ケラレサル重要ナル陳述又ハ其書面ノ旨趣ト重要ノ點ニ於テ異ナルモノハ其殊ニ異ノ附加、刪除又ハ其他ノ変更ニ係ルト否トヲ問ハス申立ニ因リ又ハ職権ヲ以テ調書又ハ其附録トシテ添附スヘキ為メ差出シタル書面ニ依テ之ヲ明確ニスヘシ

第二百二十一條　原告被告ハ訴訟記録ヲ展閲シ且裁判所書記ヲシテ其正本、抜書及ヒ謄本ヲ付與セシムルヿヲ得

裁判長ハ第三者ノ権利上ノ利害ヲ疏明スル

中ニ限リ原告被告ノ承諾ナクシテ記録ノ展閲及ヒ其抜書并ニ謄本ノ付與ヲ許スヿヲ得

判決、決定、命令ノ草案及ヒ其準備ニ供シタル書類并ニ評議又ハ處罰ニ関スル書類ハ之ヲ提示セシメス且其謄本ヲ付與セス

左ノ第二節ヨリハ全ク旧案ヲ原トシテ取調ヘ修正ヲ為シタルモノニ係ル是ヲ以テ常例ニ復シ修正ノ條項ヲ掲ケ多少ノ説明ヲ付シ而シテ旧條ヲ削リタルト新條ヲ加ヘタルトニ論ナク総テ旧案ノ十五條ツヽヲ以テ一會ノ議案ニ呈ス

（旧オ三百七十五　新オ二百七十二）

第二節　判決

第二百二十二條　判決ハ裁判所ハ終局判決ヲ以テ裁判ヲ發スル中ハ同時ニ辯論及ヒ裁判ノ為メ又ハ併合セラレタル数箇ノ訴訟ノ一ノミカ裁判ヲ為スニ熟スル中ハ亦前項ニ同シ

（修正ノ理由）

第一項中本事件又ハ豫ハ特別ニ完結スヘキノ上五字ヲ削リ点ヲ訴ニ改メ判決ノ上ニ終局ノ二字ヲ加ヘタルハ終局判決ト中間判決トノ區別ヲ立テ本項ニ於テ一般ノ終局判決ノ原則ヲ定メシモノナリ

第二項中同時ハトアルヲ同時ニトト改メ裁判ハトアルヲ裁判ノ為メトト改メ且ニハノ二字ヲ削リ併合セルトアルヲ併合セラレタルト改メ訴訟トアル下中ニハ其ニハノ五字ヲ削リタルハ文意ヲ明カニシタルマテナリ



（旧オ三百七十六　新オ二百七十三）

第二百二十三條　同一ノ訴ニ於テ起サレタル数個ノ請求ノ一ノ請求ノ一ノ個ノ請求ノ一ノ合ノ又ハ一ノ個ノ

ミ又ハ又訴ヲ起シタル場合ニ於テハ本訴若シクハ反訴ノミカ裁判ヲ為スニ熟スルトキハ裁判所ハ終局判決（一分判決）ヲ以テ裁判スヘシ然レトモ裁判所ハ事件ノ情況ニ隨ヒ一分判決ヲ相当ナリトセサルトキハ之ヲ為サヽルヿヲ得

（未項ノ削除）

（修正ノ理由）六字ト其裁判ヲ為スニ熟シ少ク云々以下ヲ削リ本文ノ如ク改メタルハ法意ヲ明瞭ニシタルモノナリ

第一項中ノ中ニテ其一ニノ裁判所カ事件ノ程度ニトアルヲ第二項中裁判所ハ事件ノ情況ニト改メ一分ハトアル



第二百二十四條

各個ノ獨立ナル攻撃若クハ防禦ノ方法又ハ中間ノ爭カ裁判スルヿヲ為スニ熟スルトキハ裁判所ハ中間判決ヲ以テ裁判スルヿヲ得

（修正ノ理由）旧第三百七十三條ノ如キハ追々修正シ來リタル結果ニテ之ヲ削除セサルヲ得ス依テ旧第三百七十三條ニ換ヘ右ノ一條ヲ設ケ中間判決ナルモノヽ精神ヲ明カニス

第二百二十五條　請求ノ原由及ヒ數額カ爭ハレタル片ハ裁判所ハ先ツ其原由ニ付キ裁判ヲ為スヲ得

請求ノ原由ヲ相当ナリト宣言スル判決ハ訴ニ關シテハ終局判決ト看做シ其判決確定ニ至ルマテ爾後ノ手續ヲ中止ス然レトモ裁判所ハ申立ニ因リ其數額ニ付キ辯論スヘキヲ命スルヲ得

(未)項ノ削除

(修正ノ理由)　第一項中損害云々ノ場合ニ於テマテノ二十四字ヲ削リタルハ之ヲ必要トセサルカ故ナリ又「理由」トアルヲ「原由」ト改メタルハ飜譯局ト協議上ナリ



第二百二十六條　第二項中其ハ云々申立ツルトカ得マテノ二十四字ヲ削リ本文ノ如ク修正シ且ルマテノ下ハ其他ノ三字ヲ爾後ト改メタルハ前數條ヲ修正シ來リタル結果ニシテ且法文ヲ明カニシタルモノナリ

末項ヲ削除シタルハ總則中妨訴ノ抗辯ノ條項ヲ修正シタル結果ナリ

(修正ノ理由)　本條ノ新タニ茲ニ加ヘタル訴訟拒絶ノ請求ヲ認諾スルニ基キ判決ヲ以テ訴訟ノ棄却又ハ認諾ヲ為スヘシ

際其訴ヘタル請求權ヲ拒絶シ又ハ其一方ノ申立ニ因リ其ノ裁判所ハ被告カ口頭辯論ノ期日ニ出ツ

切下ハ敗

ハ總則中ヲ修正シタル結果ニシテ之ノ加ヘサルヲ得サルニ至リタレハナリ

第二百二十七條　旧第三百七十五條ノ原文ノ儘ニ据ヘ置リタル原文中ニ「持立」トアルハ「獨立」ノ誤ナリ

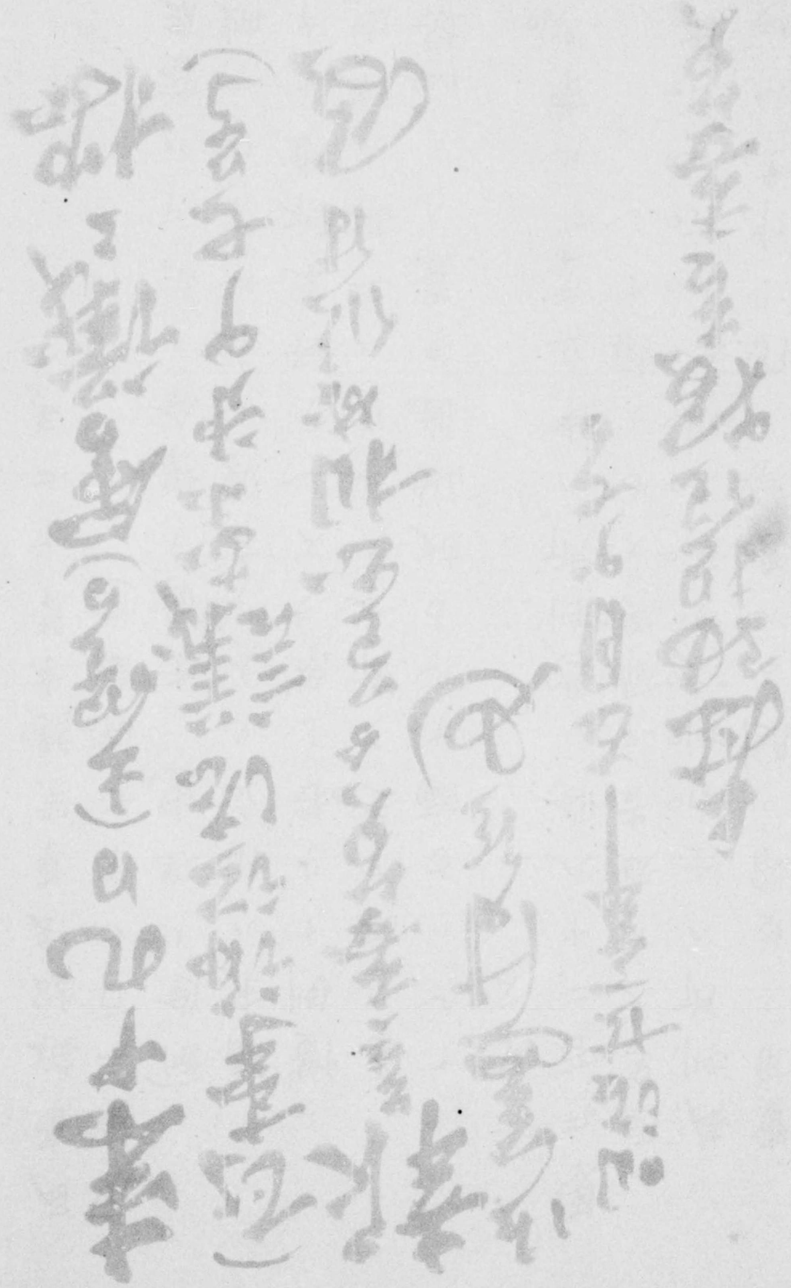
旧第三百七十六條ハ削除ノ理由　本條ノ如キハ其必要ノ見ヘ何トナレハ是等ノ手續ハ判決書ノ調製方法中ニ自ラ明カナレハナリ

独乙訴訟法ニ於テ法律上ノ期間トアルハ左ノ數條等ナリ

第百條　第百二十五條
第二百十二條　第二百九十一條
第二百九十二條　第三百十二條
第六百二十四條　第六百三十七條
第八百五十五條

又不可變期間トハ法律上其明文ヲ掲ケタルモノニシテ左ノ數條等ヲ云フ

第二百十二條　第三百四條
第四百七十七條　第五百十四條
第五百四十條　第五百四十九條
裁判官ノ定ムル期間トハ第八十五條第百五條等ノ類ナリ



民事訴訟法草案議案第十七号

旧第三百七十七條削除

削除ノ理由　本條ノ場合ニ於テハ當度ノ請求ハ相立タスト言渡シ来ルヿハ一般ノ慣例ナリ若シ然ラスシテ將来訴權ナキノ意ヲ以テ之ヲ却下スルトキハ上訴ノ理由トナルハ勿論ナルカ故此條ヲ置クノ必要ヲ見ス

第二百二十八條　裁判所ハ申立テサル事物ヲ原告又ハ被告ニ帰與スルノ權ナシ

裁判所ハ終局判決ヲ為スノ場合ニ於テハ訴訟費用ノ負擔ニ関スル義務ニ限リ申立アラサルモ判決スルヿヲ要ス然レ𪜈一分判決ヲ為

場合ニ於テハ費用ノ点ニ付テノ裁判ヲ後ノ判決ニ譲ルヿヲ得

（修正ノ理由）第一項ノ原文中對シ其ノ及ビ項ニ付キ裁判スルノ八字ヲ削リ又第二項中然シ此ノ下ノ裁判所ハノ四字一分ノ下ノ一字判決ノ下ニ於テノ三字後日トアル日ノ一字ノ末尾ニ留保スノ五字ヲ削リ本文ノ如ク修正シタルハ法意ヲ明瞭ニシタルモノナリ

第二百二十九條　判決ハ其判決ノ原由ヲ頭辯論ニ臨席シタル判事ノミヲ為スヿヲ得

（修正ノ理由）原文判決トアル下ハ發下ニ



ハ其判決トアル下發下ニ先チカ最終ハノ十字及ビ參與スルノ四字ヲ削リ本文ノ如ク修正ヲ加ヘタルハ其判決ヲ為スノ基礎トナル口頭辯論ニ立會タル判事カ言渡ヲ為スヘキヿヲ明カニシタルモノナリ

第二百三十條　原文ノ儘

第二百三十一條　判決ハ判決式文ノ朗讀ニ因リ之ヲ言渡ス前ノトキ雖モ之ヲ言渡スヿヲ得

判決ハ其式文ヲ作ラサル裁判ノ理由ヲ朗讀シ又ハ其要領ヲ口告スルヿヲ以テ足リ

第二百三十二條

修正ノ理由

加ヘタルハ速ニ言渡スヘキヿヲ慮リタルモノナリ第二項中同時ニノ三字及ヒ重要ナル旨趣ヲ言渡ス十一字ヲ削リ本文ノ如ク修正ヲ加ヘタルハ法理ヲ明カニシタルマテナリ

第一項中ニ懈怠判決云々ヲ除ハ又言渡ハ原告被告ノ決ヲ他ノ判決ト否トヲ問ハス其効力アリ其方法ニ基キ訴訟手續ヲ続行シ又ハ其方法ニ於テ使用スルル場合ニ限リ其判決ヲ送達スルトキハ又言渡サレ在廷スル判決ニ代ヘ送達スルヿヲ要セス

第二百三十三條



第二百三十三條

修正ノ理由

第一項ノ原文中ハ効力ノ三字ト未既ハ在廷ニ拘ハラスノハ字ヲ削リ本文ノ如ク改メタルハ法理ヲ明カニセシマテナリ第二項ヲ置キタルハ中間判決ヲ設クタル結果ナリ而シテ本文中ニ此法律ニ云々トアルハ不可変期間等ノ場合ナリ」

第一　原告被告及ヒ其法律上代人ノ氏名、身分、職業及ヒ住所ノ表示

第二　原告被告ノ口頭演述ニ基キ且提出シタル申立ヲ表シタル事実及ヒ争ノ論點ノ摘示

第三　裁判ノ理由

第四 判決式文

第五 裁判所ノ名稱 裁判ニ參與シタル判事ノ官氏名

（修正ノ理由）第一項ハ處務規定ニ屬スルモノナルカ故ニ之ヲ削ル又第二項ニ判決ニハトアル「ニ」ノ一字ハ不用ナルヲ以テ之ヲ削リ其第二号ノ原文ヲ更ニ本文ノ如ク全ク改メタルハ法理ヲ明カニシタルモノナリ第四号ノ裁判其ものハ五字ヲ削リ括弧ヲ取リ第五号中並ニ以下ヲ削リタルハ必要ヲ見サルカ爲メナル字ヲ加ヘタルカ故ナリ尤第五号中官ノ一モノト思考スレハナリ



第二百三十四條 「書」ノ一字ト裁判長其旨ヲトアル下判決書ニノ四字ヲ削リ又先位ハトアル三字ヲ官等最モ高キノ六字ニ改ム第二項中判決書トアル「書」ノ一字ヲ削ル

（修正ノ理由）本條ハ先例ニ倣ヒ文字ヲ改メタルマテナリ

第二百三十五條 正本ハ原告ノ代理人ニ送達セシム

（修正ノ理由）原文ヲ全廢シ本文ノ如キ法文ヲ設ケタルモノハ原文ノ如ク申立ニ因

リ判決ノ送達ヲ為スモノトスル中ハ数ケ月ヲ経又ハ数年ノ後ニ此申立ヲ為スモ計リカタシ果シテ然ラハ其裁判確定スルハ何レノ日ニアルカ知ルヘカラス殊ニ此訴訟法ハ裁判所カ原被告ノ間ニ立入リ送達ヲ為スヘキ成規ナルカ故ニ以テ裁判所ハ言渡ヲ為シタル中ハ申立ニ拘ハラス職権ヲ以テ送達ヲ為スヿニ定メタリ

第二百三十六條 (原文第一項ヲ原ノ儘第二項ト為シ第二項ヲ第三項ト為シテ新タニ左ノ如ク第一項ヲ設ル)

裁判所書記ハ判決ノ原本ヲ領收シタルヨリ遅クトモ七日内ニ其正本ヲ作ルヘシ

(修正ノ理由) 第一項ヲ新タニ差加ヘタルモノハ前條ヲ修正シタル結果ナリ

第二百三十七條 裁判所ハ其言渡シタル終局判決及ヒ中間判決中ニ包含セラレタル裁判ニ羈束セラル

(修正ノ理由) 第一項中ニハ訴訟ハ全部又ハ一分ヲ完結スルモノハ二十字ヲ削リ本文ノ如ク修正シタルハ前數條ヲ修正シタル結果ナリ

第二項ハ必要ナル故之ヲ削除ス

第二百三十八條 (第一項中判決書トアル書ノ一字ヲ削リ餘ハ原文ノ儘ニシテ新タニ左ノ第二項第三項ヲ加フ)

更正ニ付テハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ裁判スルヲ得ス更正ニ付テノ申立ヲ却下スル決定ニ對シテハ上訴ヲ為スヲ得ス更正ニ付テノ申立ヲ得ス更正ニ付テノ決定ニ對シテハ即時ノ抗告ヲ為スヲ得

（修正ノ理由）第一項中書ノ一字ヲ削リタルハ前ノ修正ニ倣ヒタルモノナリ又第二項第三項ハ必要ト思考シ独逸訴訟法第二百九十條ノ第二三項ヲ取リタリ

第二百三十九條第一項ハ原文ノ儘

第二項中判決書トアル書ノ一字ヲ削リ餘ハ原文ノ儘

第三項ノ末段部分トアル下ハシヲ以テ目的



トスノ九字ヲ削リ部分ニ限リ之ヲ為スト改

第四項ハ削除

（修正ノ理由）第二項中書ノ一字ヲ削リシハ先例ニ倣ヒタリ第三項ハ法意ヲ明カニシタルマテナリ第四項ハ口頭辯論ノ原則ニ背クヲ以テ削除セリ

第二百四十條第一項ハ判決ヲ更正シ又ハ之ヲ補充スル裁判ハ判決ノ原本及ヒ正本ニ之ヲ加フ若シ正本ニ之ヲ加フルヲ得サルトキハ更正又ハ補充ノ裁判ノ正本ヲ作リ之ヲ送達スルヲ要ス

（修正ノ理由）原文中其モノハ成分ニシテ之

未定



ヲ十一字ヲ削リ本文ノ如ク修正ヲ加ヘタルハ前数條ヲ修正シタル結果ニシテ且法意ヲ明カニシタルモノナリ

旧第三百九十一條ハ削除

削除ノ理由

本條ハ專ラ判決ノ理由ハ確定セサルヲ示シタルモノナレ𪜈民法草案ト牴觸スル所アルヲ以テ削除ス

民事訴訟法草案議案第十八号

第二百四十一條　口頭辯論ニ基キ為スヘキ裁判所ノ決定ハ之ヲ言渡スヘキ要スルノ規定ハ裁判所ノ決定ニ又第二百三十一條、第二百三十條、第二百三十七條、第二百三十六條ノ規定及ヒ裁判長ノ命令ニ之ヲ準用スル

三十三ノ八ノ決リ

（修正ノ理由）旧第三百九十二條中冒頭ノ口頭辯論ニ基キトアル下ヲ總テ取削シ本文ノ如ク改メタルハ前數條ヲ修正シタル結果ナリ

旧第三百九十三條　（削除）

（削除ノ理由）本條ノ旨趣ハ前條中ニ加ヘタルヲレスヲナリ

第三節

第二百四十二條　懈怠判決

改ム其餘ハ原文ノ儘

（本條中闕席トアルヲ懈怠ト

（修正ノ理由）闕席ヲ懈怠ト改メタルハ先例ニ從ヒタリ

第二百四十三條　出頭セサル一方カ原告ナルトキハ裁判所ハ懈怠判決ヲ下スヘキ旨ヲ要ス言渡スヲ要ス

（修正ノ理由）原文中其起シタル請求ヲ拋棄シタルモノハ着做シノ十九字ハ之ヲ置カサルモ判決ヲ以テ訴ヲ却下スルトキハ勿論



其事件ヲ再訴スルノ權ナキ故右ノ數字ハ心要ヲ見ス其他其訴ヲ却下スルトキハ闕席判決ヲ以テトアルヲ本文ノ如ク改メタルハ他ノ文例ニ倣ヒタリ

第二百四十四條　出頭セサル一方ヲ被告ナルトキハ裁判所ハ被告カ原告ノ事實上ノ口頭供述ヲ自認シタルモノト着做ス

前項ノ理由ニ基キ若シ原告ノ供述ニ因リ其起シタル請求カ正當ナルトキハ懈怠判決ヲ以テ被告ノ敗訴ヲ言渡シ又其請求カ正當ナラサルトキハ原告ノ訴ノ却下ヲ言渡スヲ要ス

（修正ノ理由）第一項原文中被告ヨリ書面ヲ差出シタルト否トヲ問ハスノ十九字ハ心

見ナラサル故之ヲ削リ提出トアルヲ供述ト改メタルハ旨趣ヲ明カニセシマテナリ

第二項中提出ノ三字ヲ供述ニ因リト改メ請求ノ下ヲトアルヲカト改メ正當ノ下ニ為スニ足ル五字ヲ削リ闕席ヲ懈怠ト改メタルハ先例ノ熟字ヲ用ヒ文意ヲ明カニシタルモノナリ

旧第三百九十七條（前條）

（前條ノ理由）判決ノ節ニ於テ反訴ノ場合ヲ別ニ設ケサリシ故本節ニ於テモ亦其例ニ従ヒ之ヲ削除ス

延期セラレタル口頭辯論ノ期日又ハ擧證決定ヲ發スル前若クハ後ニ於テ口頭辯論續行ノ為メニ定ムル期日モ亦第二百四十七條ノ辯論期日ト看做ス

（新設ノ理由）辯論續行ノ為メニ定ムル期日ニ懈怠シタル時ハ何レノ規定ニ依ルヘキカト云フノ疑ヲ生スヘキ故其場合ヲ明瞭ニセンカ為メ本條ヲ設ケタリ

第二百四十八條

原告又ハ被告ニシテ出頭又ハ辯論ヲ為サヽルモノ又ハ辯論ヲ為サヽルモノト看做サル前ニ任意ニ退廷シタルモノハ出頭セサルモノト看做サル

（修正ノ理由）原文中陳述又ハ其陳述トアルヲ總テ辯論ト改メ第百五十三條又ハ第二

第ニ

ルノフニ

原為白リテ削除百カ總ル心帝百

告ノス四ウ除又四ニ則ベト丸

又ノナスノノナシヲキアナ

ハ申ハ九反理慮ヒリ修ノル條

被立條由テ疑其修ルヒ一退規

告ヲハ却左ヲノ生一修ナルトトニ

口下ノ頭ノス字中リ結亦改依

頭ノス場ヘ合ハ其ノメリ

論ヘ合ヒ必ノ一ヤノ

ノ然於キ必ノ字ハニ

延ノシテ嫌要字テテ如ナ

期限ハ ヲ ヲ且削小字

ヲ出ノ懈ヲサ削文リニヲ

申ノ頭总以ルリ意タ取削

辺ノ判テノ其ヲル扱リ

ソタノ決ナミ餘 明ハ退

第

ルノフニ

原為白リテ削除百カ總ル心帝百

告ノス四ウ除又四ニ則ベト丸

又ノナスノノナシヲキアナ

ハ申ハ九反理慮ヒリ修ノル條

被立條由テ疑其修ルヒ一退規

告ヲハ却左ヲノ生一修ナルトトニ

口下ノ頭ノス字中リ結亦改依

頭ノス場ヘ合ハ其ノメリ

論ヘ合ヒ必ノ一ヤノ

ノ然於キ必ノ字ハニ

延ノシテ嫌要字テテ如ナ

期限ハ ヲ ヲ且削小字

ヲ出ノ懈ヲサ削文リニヲ

申ノ頭总以ルリ意タ取削

辺ノ判テノ其ヲル扱リ

ソタノ決ナミ餘 明ハ退

第ノ

ルノフニ

原為白リテ修ノ條ハ三ノ明ノ職ノ一ノフノ

告ノス四ウ修又四ニ則ベト丸

又ノナスノノナシヲキアナ

ハ申ハ九反理慮ヒリ修ノル條

被立條由テ疑其修ルヒ一退規

告ヲハ却左ヲノ生一修ナルトトニ

口下ノ頭ノス字中リ結亦改依

頭ノス場ヘ合ハ其ノメリ

論ヘ合ヒ必ノ一ヤノ

ノ然於キ必ノ字ハニ

延ノシテ嫌要字テテ如ナ

期限ハ ヲ ヲ且削小字

ヲ出ノ懈ヲサ削文リニヲ

申ノ頭总以ルリ意タ取削

辺ノ判テノ其ヲル扱リ

ソタノ決ナミ餘 明ハ退

第ノ

ルノフニ

原為白リテ修ノ條ハ三ノ明ノ職ノ一ノフノ

告ノス四ウ修又四ニ則ベト丸

又ノナスノノナシヲキアナ

ハ申ハ九反理慮ヒリ修ノル條

被立條由テ疑其修ルヒ一退規

告ヲハ却左ヲノ生一修ナルトトニ

口下ノ頭ノス字中リ結亦改依

頭ノス場ヘ合ハ其ノメリ

論ヘ合ヒ必ノ一ヤノ

ノ然於キ必ノ字ハニ

延ノシテ嫌要字テテ如ナ

期限ハ ヲ ヲ且削小字

ヲ出ノ懈ヲサ削文リニヲ

申ノ頭总以ルリ意タ取削

辺ノ判テノ其ヲル扱リ

ソタノ決ナミ餘 明ハ退

第二百五十九條　甲第四號證の二乃至第四號證の五、第五號證の一乃至第五號證の三、第六號證の一乃至第六號證の三、第七號證の一乃至第七號證の三、第八號證の一乃至第八號證の三、第九號證の一乃至第九號證の三、第十號證の一乃至第十號證の三、第十一號證の一乃至第十一號證の三、第十二號證の一乃至第十二號證の三、第十三號證の一乃至第十三號證の三、第十四號證の一乃至第十四號證の三、第十五號證の一乃至第十五號證の三、第十六號證の一乃至第十六號證の三、第十七號證の一乃至第十七號證の三、第十八號證の一乃至第十八號證の三、第十九號證の一乃至第十九號證の三、第二十號證の一乃至第二十號證の三、第二十一號證の一乃至第二十一號證の三、第二十二號證の一乃至第二十二號證の三、第二十三號證の一乃至第二十三號證の三、第二十四號證の一乃至第二十四號證の三、第二十五號證の一乃至第二十五號證の三、第二十六號證の一乃至第二十六號證の三、第二十七號證の一乃至第二十七號證の三、第二十八號證の一乃至第二十八號證の三、第二十九號證の一乃至第二十九號證の三、第三十號證の一乃至第三十號證の三、第三十一號證の一乃至第三十一號證の三、第三十二號證の一乃至第三十二號證の三、第三十三號證の一乃至第三十三號證の三、第三十四號證の一乃至第三十四號證の三、第三十五號證の一乃至第三十五號證の三、第三十六號證の一乃至第三十六號證の三、第三十七號證の一乃至第三十七號證の三、第三十八號證の一乃至第三十八號證の三、第三十九號證の一乃至第三十九號證の三、第四十號證の一乃至第四十號證の三、第四十一號證の一乃至第四十一號證の三、第四十二號證の一乃至第四十二號證の三、第四十三號證の一乃至第四十三號證の三、第四十四號證の一乃至第四十四號證の三、第四十五號證の一乃至第四十五號證の三、第四十六號證の一乃至第四十六號證の三、第四十七號證の一乃至第四十七號證の三、第四十八號證の一乃至第四十八號證の三、第四十九號證の一乃至第四十九號證の三、第五十號證の一乃至第五十號證の三、第五十一號證の一乃至第五十一號證の三、第五十二號證の一乃至第五十二號證の三、第五十三號證の一乃至第五十三號證の三、第五十四號證の一乃至第五十四號證の三、第五十五號證の一乃至第五十五號證の三、第五十六號證の一乃至第五十六號證の三、第五十七號證の一乃至第五十七號證の三、第五十八號證の一乃至第五十八號證の三、第五十九號證の一乃至第五十九號證の三、第六十號證の一乃至第六十號證の三、第六十一號證の一乃至第六十一號證の三、第六十二號證の一乃至第六十二號證の三、第六十三號證の一乃至第六十三號證の三、第六十四號證の一乃至第六十四號證の三、第六十五號證の一乃至第六十五號證の三、第六十六號證の一乃至第六十六號證の三、第六十七號證の一乃至第六十七號證の三、第六十八號證の一乃至第六十八號證の三、第六十九號證の一乃至第六十九號證の三、第七十號證の一乃至第七十號證の三、第七十一號證の一乃至第七十一號證の三、第七十二號證の一乃至第七十二號證の三、第七十三號證の一乃至第七十三號證の三、第七十四號證の一乃至第七十四號證の三、第七十五號證の一乃至第七十五號證の三、第七十六號證の一乃至第七十六號證の三、第七十七號證の一乃至第七十七號證の三、第七十八號證の一乃至第七十八號證の三、第七十九號證の一乃至第七十九號證の三、第八十號證の一乃至第八十號證の三、第八十一號證の一乃至第八十一號證の三、第八十二號證の一乃至第八十二號證の三、第八十三號證の一乃至第八十三號證の三、第八十四號證の一乃至第八十四號證の三、第八十五號證の一乃至第八十五號證の三、第八十六號證の一乃至第八十六號證の三、第八十七號證の一乃至第八十七號證の三、第八十八號證の一乃至第八十八號證の三、第八十九號證の一乃至第八十九號證の三、第九十號證の一乃至第九十號證の三、第九十一號證の一乃至第九十一號證の三、第九十二號證の一乃至第九十二號證の三、第九十三號證の一乃至第九十三號證の三、第九十四號證の一乃至第九十四號證の三、第九十五號證の一乃至第九十五號證の三、第九十六號證の一乃至第九十六號證の三、第九十七號證の一乃至第九十七號證の三、第九十八號證の一乃至第九十八號證の三、第九十九號證の一乃至第九十九號證の三、第百號證の一乃至第百號證の三、第百一號證の一乃至第百一號證の三、第百二號證の一乃至第百二號證の三、第百三號證の一乃至第百三號證の三、第百四號證の一乃至第百四號證の三、第百五號證の一乃至第百五號證の三、第百六號證の一乃至第百六號證の三、第百七號證の一乃至第百七號證の三、第百八號證の一乃至第百八號證の三、第百九號證の一乃至第百九號證の三、第百十號證の一乃至第百十號證の三、第百十一號證の一乃至第百十一號證の三、第百十二號證の一乃至第百十二號證の三、第百十三號證の一乃至第百十三號證の三、第百十四號證の一乃至第百十四號證の三、第百十五號證の一乃至第百十五號證の三、第百十六號證の一乃至第百十六號證の三、第百十七號證の一乃至第百十七號證の三、第百十八號證の一乃至第百十八號證の三、第百十九號證の一乃至第百十九號證の三、第百二十號證の一乃至第百二十號證の三、第百二十一號證の一乃至第百二十一號證の三、第百二十二號證の一乃至第百二十二號證の三、第百二十三號證の一乃至第百二十三號證の三、第百二十四號證の一乃至第百二十四號證の三、第百二十五號證の一乃至第百二十五號證の三、第百二十六號證の一乃至第百二十六號證の三、第百二十七號證の一乃至第百二十七號證の三、第百二十八號證の一乃至第百二十八號證の三、第百二十九號證の一乃至第百二十九號證の三、第百三十號證の一乃至第百三十號證の三、第百三十一號證の一乃至第百三十一號證の三、第百三十二號證の一乃至第百三十二號證の三、第百三十三號證の一乃至第百三十三號證の三、第百三十四號證の一乃至第百三十四號證の三、第百三十五號證の一乃至第百三十五號證の三、第百三十六號證の一乃至第百三十六號證の三、第百三十七號證の一乃至第百三十七號證の三、第百三十八號證の一乃至第百三十八號證の三、第百三十九號證の一乃至第百三十九號證の三、第百四十號證の一乃至第百四十號證の三、第百四十一號證の一乃至第百四十一號證の三、第百四十二號證の一乃至第百四十二號證の三、第百四十三號證の一乃至第百四十三號證の三、第百四十四號證の一乃至第百四十四號證の三、第百四十五號證の一乃至第百四十五號證の三、第百四十六號證の一乃至第百四十六號證の三、第百四十七號證の一乃至第百四十七號證の三、第百四十八號證の一乃至第百四十八號證の三、第百四十九號證の一乃至第百四十九號證の三、第百五十號證の一乃至第百五十號證の三、第百五十一號證の一乃至第百五十一號證の三、第百五十二號證の一乃至第百五十二號證の三、第百五十三號證の一乃至第百五十三號證の三、第百五十四號證の一乃至第百五十四號證の三、第百五十五號證の一乃至第百五十五號證の三、第百五十六號證の一乃至第百五十六號證の三、第百五十七號證の一乃至第百五十七號證の三、第百五十八號證の一乃至第百五十八號證の三、第百五十九號證の一乃至第百五十九號證の三、第百六十號證の一乃至第百六十號證の三、第百六十一號證の一乃至第百六十一號證の三、第百六十二號證の一乃至第百六十二號證の三、第百六十三號證の一乃至第百六十三號證の三、第百六十四號證の一乃至第百六十四號證の三、第百六十五號證の一乃至第百六十五號證の三、第百六十六號證の一乃至第百六十六號證の三、第百六十七號證の一乃至第百六十七號證の三、第百六十八號證の一乃至第百六十八號證の三、第百六十九號證の一乃至第百六十九號證の三、第百七十號證の一乃至第百七十號證の三、第百七十一號證の一乃至第百七十一號證の三、第百七十二號證の一乃至第百七十二號證の三、第百七十三號證の一乃至第百七十三號證の三、第百七十四號證の一乃至第百七十四號證の三、第百七十五號證の一乃至第百七十五號證の三、第百七十六號證の一乃至第百七十六號證の三、第百七十七號證の一乃至第百七十七號證の三、第百七十八號證の一乃至第百七十八號證の三、第百七十九號證の一乃至第百七十九號證の三、第百八十號證の一乃至第百八十號證の三、第百八十一號證の一乃至第百八十一號證の三、第百八十二號證の一乃至第百八十二號證の三、第百八十三號證の一乃至第百八十三號證の三、第百八十四號證の一乃至第百八十四號證の三、第百八十五號證の一乃至第百八十五號證の三、第百八十六號證の一乃至第百八十六號證の三、第百八十七號證の一乃至第百八十七號證の三、第百八十八號證の一乃至第百八十八號證の三、第百八十九號證の一乃至第百八十九號證の三、第百九十號證の一乃至第百九十號證の三、第百九十一號證の一乃至第百九十一號證の三、第百九十二號證の一乃至第百九十二號證の三、第百九十三號證の一乃至第百九十三號證の三、第百九十四號證の一乃至第百九十四號證の三、第百九十五號證の一乃至第百九十五號證の三、第百九十六號證の一乃至第百九十六號證の三、第百九十七號證の一乃至第百九十七號證の三、第百九十八號證の一乃至第百九十八號證の三、第百九十九號證の一乃至第百九十九號證の三、第二百號證の一乃至第二百號證の三、第二百一號證の一乃至第二百一號證の三、第二百二號證の一乃至第二百二號證の三、第二百三號證の一乃至第二百三號證の三、第二百四號證の一乃至第二百四號證の三、第二百五號證の一乃至第二百五號證の三、第二百六號證の一乃至第二百六號證の三、第二百七號證の一乃至第二百七號證の三、第二百八號證の一乃至第二百八號證の三、第二百九號證の一乃至第二百九號證の三、第二百十號證の一乃至第二百十號證の三、第二百十一號證の一乃至第二百十一號證の三、第二百十二號證の一乃至第二百十二號證の三、第二百十三號證の一乃至第二百十三號證の三、第二百十四號證の一乃至第二百十四號證の三、第二百十五號證の一乃至第二百十五號證の三、第二百十六號證の一乃至第二百十六號證の三、第二百十七號證の一乃至第二百十七號證の三、第二百十八號證の一乃至第二百十八號證の三、第二百十九號證の一乃至第二百十九號證の三、第二百二十號證の一乃至第二百二十號證の三、第二百二十一號證の一乃至第二百二十一號證の三、第二百二十二號證の一乃至第二百二十二號證の三、第二百二十三號證の一乃至第二百二十三號證の三、第二百二十四號證の一乃至第二百二十四號證の三、第二百二十五號證の一乃至第二百二十五號證の三、第二百二十六號證の一乃至第二百二十六號證の三、第二百二十七號證の一乃至第二百二十七號證の三、第二百二十八號證の一乃至第二百二十八號證の三、第二百二十九號證の一乃至第二百二十九號證の三、第二百三十號證の一乃至第二百三十號證の三、第二百三十一號證の一乃至第二百三十一號證の三、第二百三十二號證の一乃至第二百三十二號證の三、第二百三十三號證の一乃至第二百三十三號證の三、第二百三十四號證の一乃至第二百三十四號證の三、第二百三十五號證の一乃至第二百三十五號證の三、第二百三十六號證の一乃至第二百三十六號證の三、第二百三十七號證の一乃至第二百三十七號證の三、第二百三十八號證の一乃至第二百三十八號證の三、第二百三十九號證の一乃至第二百三十九號證の三、第二百四十號證の一乃至第二百四十號證の三、第二百四十一號證の一乃至第二百四十一號證の三、第二百四十二號證の一乃至第二百四十二號證の三、第二百四十三號證の一乃至第二百四十三號證の三、第二百四十四號證の一乃至第二百四十四號證の三、第二百四十五號證の一乃至第二百四十五號證の三、第二百四十六號證の一乃至第二百四十六號證の三、第二百四十七號證の一乃至第二百四十七號證の三、第二百四十八號證の一乃至第二百四十八號證の三、第二百四十九號證の一乃至第二百四十九號證の三、第二百五十號證の一乃至第二百五十號證の三、第二百五十一號證の一乃至第二百五十一號證の三、第二百五十二號證の一乃至第二百五十二號證の三、第二百五十三號證の一乃至第二百五十三號證の三、第二百五十四號證の一乃至第二百五十四號證の三、第二百五十五號證の一乃至第二百五十五號證の三、第二百五十六號證の一乃至第二百五十六號證の三、第二百五十七號證の一乃至第二百五十七號證の三、第二百五十八號證の一乃至第二百五十八號證の三、第二百五十九號證の一乃至第二百五十九號證の三、第二百六十號證の一乃至第二百六十號證の三、第二百六十一號證の一乃至第二百六十一號證の三、第二百六十二號證の一乃至第二百六十二號證の三、第二百六十三號證の一乃至第二百六十三號證の三、第二百六十四號證の一乃至第二百六十四號證の三、第二百六十五號證の一乃至第二百六十五號證の三、第二百六十六號證の一乃至第二百六十六號證の三、第二百六十七號證の一乃至第二百六十七號證の三、第二百六十八號證の一乃至第二百六十八號證の三、第二百六十九號證の一乃至第二百六十九號證の三、第二百七十號證の一乃至第二百七十號證の三、第二百七十一號證の一乃至第二百七十一號證の三、第二百七十二號證の一乃至第二百七十二號證の三、第二百七十三號證の一乃至第二百七十三號證の三、第二百七十四號證の一乃至第二百七十四號證の三、第二百七十五號證の一乃至第二百七十五號證の三、第二百七十六號證の一乃至第二百七十六號證の三、第二百七十七號證の一乃至第二百七十七號證の三、第二百七十八號證の一乃至第二百七十八號證の三、第二百七十九號證の一乃至第二百七十九號證の三、第二百八十號證の一乃至第二百八十號證の三、第二百八十一號證の一乃至第二百八十一號證の三、第二百八十二號證の一乃至第二百八十二號證の三、第二百八十三號證の一乃至第二百八十三號證の三、第二百八十四號證の一乃至第二百八十四號證の三、第二百八十五號證の一乃至第二百八十五號證の三、第二百八十六號證の一乃至第二百八十六號證の三、第二百八十七號證の一乃至第二百八十七號證の三、第二百八十八號證の一乃至第二百八十八號證の三、第二百八十九號證の一乃至第二百八十九號證の三、第二百九十號證の一乃至第二百九十號證の三、第二百九十一號證の一乃至第二百九十一號證の三、第二百九十二號證の一乃至第二百九十二號證の三、第二百九十三號證の一乃至第二百九十三號證の三、第二百九十四號證の一乃至第二百九十四號證の三、第二百九十五號證の一乃至第二百九十五號證の三、第二百九十六號證の一乃至第二百九十六號證の三、第二百九十七號證の一乃至第二百九十七號證の三、第二百九十八號證の一乃至第二百九十八號證の三、第二百九十九號證の一乃至第二百九十九號證の三、第三百號證の一乃至第三百號證の三、第三百一號證の一乃至第三百一號證の三、第三百二號證の一乃至第三百二號證の三、第三百三號證の一乃至第三百三號證の三、第三百四號證の一乃至第三百四號證の三、第三百五號證の一乃至第三百五號證の三、第三百六號證の一乃至第三百六號證の三、第三百七號證の一乃至第三百七號證の三、第三百八號證の一乃至第三百八號證の三、第三百九號證の一乃至第三百九號證の三、第三百十號證の一乃至第三百十號證の三、第三百十一號證の一乃至第三百十一號證の三、第三百十二號證の一乃至第三百十二號證の三、第三百十三號證の一乃至第三百十三號證の三、第三百十四號證の一乃至第三百十四號證の三、第三百十五號證の一乃至第三百十五號證の三、第三百十六號證の一乃至第三百十六號證の三、第三百十七號證の一乃至第三百十七號證の三、第三百十八號證の一乃至第三百十八號證の三、第三百十九號證の一乃至第三百十九號證の三、第三百二十號證の一乃至第三百二十號證の三、第三百二十一號證の一乃至第三百二十一號證の三、第三百二十二號證の一乃至第三百二十二號證の三、第三百二十三號證の一乃至第三百二十三號證の三、第三百二十四號證の一乃至第三百二十四號證の三、第三百二十五號證の一乃至第三百二十五號證の三、第三百二十六號證の一乃至第三百二十六號證の三、第三百二十七號證の一乃至第三百二十七號證の三、第三百二十八號證の一乃至第三百二十八號證の三、第三百二十九號證の一乃至第三百二十九號證の三、第三百三十號證の一乃至第三百三十號證の三、第三百三十一號證の一乃至第三百三十一號證の三、第三百三十二號證の一乃至第三百三十二號證の三、第三百三十三號證の一乃至第三百三十三號證の三、第三百三十四號證の一乃至第三百三十四號證の三、第三百三十五號證の一乃至第三百三十五號證の三、第三百三十六號證の一乃至第三百三十六號證の三、第三百三十七號證の一乃至第三百三十七號證の三、第三百三十八號證の一乃至第三百三十八號證の三、第三百三十九號證の一乃至第三百三十九號證の三、第四百號證の一乃至第四百號證の三、第四百一號證の一乃至第四百一號證の三、第四百二號證の一乃至第四百二號證の三、第四百三號證の一乃至第四百三號證の三、第四百四號證の一乃至第四百四號證の三、第四百五號證の一乃至第四百五號證の三、第四百六號證の一乃至第四百六號證の三、第四百七號證の一乃至第四百七號證の三、第四百八號證の一乃至第四百八號證の三、第四百九號證の一乃至第四百九號證の三、第五百號證の一乃至第五百號證の三、第五百一號證の一乃至第五百一號證の三、第五百二號證の一乃至第五百二號證の三、第五百三號證の一乃至第五百三號證の三、第五百四號證の一乃至第五百四號證の三、第五百五號證の一乃至第五百五號證の三、第五百六號證の一乃至第五百六號證の三、第五百七號證の一乃至第五百七號證の三、第五百八號證の一乃至第五百八號證の三、第五百九號證の一乃至第五百九號證の三、第六百號證の一乃至第六百號證の三、第六百一號證の一乃至第六百一號證の三、第六百二號證の一乃至第六百二號證の三、第六百三號證の一乃至第六百三號證の三、第六百四號證の一乃至第六百四號證の三、第六百五號證の一乃至第六百五號證の三、第六百六號證の一乃至第六百六號證の三、第六百七號證の一乃至第六百七號證の三、第六百八號證の一乃至第六百八號證の三、第六百九號證の一乃至第六百九號證の三、第七百號證の一乃至第七百號證の三、第七百一號證の一乃至第七百一號證の三、第七百二號證の一乃至第七百二號證の三、第七百三號證の一乃至第七百三號證の三、第七百四號證の一乃至第七百四號證の三、第七百五號證の一乃至第七百五號證の三、第七百六號證の一乃至第七百六號證の三、第七百七號證の一乃至第七百七號證の三、第七百八號證の一乃至第七百八號證の三、第七百九號證の一乃至第七百九號證の三、第八百號證の一乃至第八百號證の三、第八百一號證の一乃至第八百一號證の三、第八百二號證の一乃至第八百二號證の三、第八百三號證の一乃至第八百三號證の三、第八百四號證の一乃至第八百四號證の三、第八百五號證の一乃至第八百五號證の三、第八百六號證の一乃至第八百六號證の三、第八百七號證の一乃至第八百七號證の三、第八百八號證の一乃至第八百八號證の三、第八百九號證の一乃至第八百九號證の三、第九百號證の一乃至第九百號證の三、第九百一號證の一乃至第九百一號證の三、第九百二號證の一乃至第九百二號證の三、第九百三號證の一乃至第九百三號證の三、第九百四號證の一乃至第九百四號證の三、第九百五號證の一乃至第九百五號證の三、第九百六號證の一乃至第九百六號證の三、第九百七號證の一乃至第九百七號證の三、第九百八號證の一乃至第九百八號證の三、第九百九號證の一乃至第九百九號證の三、第百十號證の一乃至第百十號證の三、第百十一號證の一乃至第百十一號證の三、第百十二號證の一乃至第百十二號證の三、第百十三號證の一乃至第百十三號證の三、第百十四號證の一乃至第百十四號證の三、第百十五號證の一乃至第百十五號證の三、第百十六號證の一乃至第百十六號證の三、第百十七號證の一乃至第百十七號證の三、第百十八號證の一乃至第百十八號證の三、第百十九號證の一乃至第百十九號證の三、第百二十號證の一乃至第百二十號證の三、第百二十一號證の一乃至第百二十一號證の三、第百二十二號證の一乃至第百二十二號證の三、第百二十三號證の一乃至第百二十三號證の三、第百二十四號證の一乃至第百二十四號證の三、第百二十五號證の一乃至第百二十五號證の三、第百二十六號證の一乃至第百二十六號證の三、第百二十七號證の一乃至第百二十七號證の三、第百二十八號證の一乃至第百二十八號證の三、第百二十九號證の一乃至第百二十九號證の三、第百三十號證の一乃至第百三十號證の三、第百三十一號證の一乃至第百三十一號證の三、第百三十二號證の一乃至第百三十二號證の三、第百三十三號證の一乃至第百三十三號證の三、第百三十四號證の一乃至第百三十四號證の三、第百三十五號證の一乃至第百三十五號證の三、第百三十六號證の一乃至第百三十六號證の三、第百三十七號證の一乃至第百三十七號證の三、第百三十八號證の一乃至第百三十八號證の三、第百三十九號證の一乃至第百三十九號證の三、第百四十號證の一乃至第百四十號證の三、第百四十一號證の一乃至第百四十一號證の三、第百四十二號證の一乃至第百四十二號證の三、第百四十三號證の一乃至第百四十三號證の三、第百四十四號證の一乃至第百四十四號證の三、第百四十五號證の一乃至第百四十五號證の三、第百四十六號證の一乃至第百四十六號證の三、第百四十七號證の一乃至第百四十七號證の三、第百四十八號證の一乃至第百四十八號證の三、第百四十九號證の一乃至第百四十九號證の三、第百五十號證の一乃至第百五十號證の三、第百五十一號證の一乃至第百五十一號證の三、第百五十二號證の一乃至第百五十二號證の三、第百五十三號證の一乃至第百五十三號證の三、第百五十四號證の一乃至第百五十四號證の三、第百五十五號證の一乃至第百五十五號證の三、第百五十六號證の一乃至第百五十六號證の三、第百五十七號證の一乃至第百五十七號證の三、第百五十八號證の一乃至第百五十八號證の三、第百五十九號證の一乃至第百五十九號證の三、第百六十號證の一乃至第百六十號證の三、第百六十一號證の一乃至第百六十一號證の三、第百六十二號證の一乃至第百六十二號證の三、第百六十三號證の一乃至第百六十三號證の三、第百六十四號證の一乃至第百六十四號證の三、第百六十五號證の一乃至第百六十五號證の三、第百六十六號證の一乃至第百六十六號證の三、第百六十七號證の一乃至第百六十七號證の三、第百六十八號證の一乃至第百六十八號證の三、第百六十九號證の一乃至第百六十九號證の三、第百七十號證の一乃至第百七十號證の三、第百七十一號證の一乃至第百七十一號證の三、第百七十二號證の一乃至第百七十二號證の三、第百七十三號證の一乃至第百七十三號證の三、第百七十四號證の一乃至第百七十四號證の三、第百七十五號證の一乃至第百七十五號證の三、第百七十六號證の一乃至第百七十六號證の三、第百七十七號證の一乃至第百七十七號證の三、第百七十八號證の一乃至第百七十八號證の三、第百七十九號證の一乃至第百七十九號證の三、第百八十號證の一乃至第百八十號證の三、第百八十一號證の一乃至第百八十一號證の三、第百八十二號證の一乃至第百八十二號證の三、第百八十三號證の一乃至第百八十三號證の三、第百八十四號證の一乃至第百八十四號證の三、第百八十五號證の一乃至第百八十五號證の三、第百八十六號證の一乃至第百八十六號證の三、第百八十七號證の一乃至第百八十七號證の三、第百八十八號證の一乃至第百八十八號證の三、第百八十九號證の一乃至第百八十九號證の三、第百九十號證の一乃至第百九十號證の三、第百九十一號證の一乃至第百九十一號證の三、第百九十二號證の一乃至第百九十二號證の三、第百九十三號證の一乃至第百九十三號證の三、第百九十四號證の一乃至第百九十四號證の三、第百九十五號證の一乃至第百九十五號證の三、第百九十六號證の一乃至第百九十六號證の三、第百九十七號證の一乃至第百九十七號證の三、第百九十八號證の一乃至第百九十八號證の三、第百九十九號證の一乃至第百九十九號證の三、第二百號證の一乃至第二百號證の三、第二百一號證の一乃至第二百一號證の三、第二百二號證の一乃至第二百二號證の三、第二百三號證の一乃至第二百三號證の三、第二百四號證の一乃至第二百四號證の三、第二百五號證の一乃至第二百五號證の三、第二百六號證の一乃至第二百六號證の三、第二百七號證の一乃至第二百七號證の三、第二百八號證の一乃至第二百八號證の三、第二百九號證の一乃至第二百九號證の三、第二百十號證の一乃至第二百十號證の三、第二百十一號證の一乃至第二百十一號證の三、第二百十二號證の一乃至第二百十二號證の三、第二百十三號證の一乃至第二百十三號證の三、第二百十四號證の一乃至第二百十四號證の三、第二百十五號證の一乃至第二百十五號證の三、第二百十六號證の一乃至第二百十六號證の三、第二百十七號證の一乃至第二百十七號證の三、第二百十八號證の一乃至第二百十八號證の三、第二百十九號證の一乃至第二百十九號證の三、第二百二十號證の一乃至第二百二十號證の三、第二百二十一號證の一乃至第二百二十一號證の三、第二百二十二號證の一乃至第二百二十二號證の三、第二百二十三號證の一乃至第二百二十三號證の三、第二百二十四號證の一乃至第二百二十四號證の三、第二百二十五號證の一乃至第二百二十五號證の三、第二百二十六號證の一乃至第二百二十六號證の三、第二百二十七號證の一乃至第二百二十七號證の三、第二百二十八號證の一乃至第二百二十八號證の三、第二百二十九號證の一乃至第二百二十九號證の三、第二百三十號證の一乃至第二百三十號證の三、第二百三十一號證の一乃至第二百三十一號證の三、第二百三十二號證の一乃至第二百三十二號證の三、第二百三十三號證の一乃至第二百三十三號證の三、第二百三十四號證の一乃至第二百三十四號證の三、第二百三十五號證の一乃至第二百三十五號證の三、第二百三十六號證の一乃至第二百三十六號證の三、第二百三十七號證の一乃至第二百三十七號證の三、第二百三十八號證の一乃至第二百三十八號證の三、第二百三十九號證の一乃至第二百三十九號證の三、第二百四十號證の一乃至第二百四十號證の三、第二百四十一號證の一乃至第二百四十一號證の三、第二百四十二號證の一乃至第二百四十二號證の三、第二百四十三號證の一乃至第二百四十三號證の三、第二百四十四號證の一乃至第二百四十四號證の三、第二百四十五號證の一乃至第二百四十五號證の三、第二百四十六號證の一乃至第二百四十六號證の三、第二百四十七號證の一乃至第二百四十七號證の三、第二百四十八號證の一乃至第二百四十八號證の三、第二百四十九號證の一乃至第二百四十九號證の三、第二百五十號證の一乃至第二百五十號證の三、第二百五十一號證の一乃至第二百五十一號證の三、第二百五十二號證の一乃至第二百五十二號證の三、第二百五十三號證の一乃至第二百五十三號證の三、第二百五十四號證の一乃至第二百五十四號證の三、第二百五十五號證の一乃至第二百五十五號證の三、第二百五十六號證の一乃至第二百五十六號證の三、第二百五十七號證の一乃至第二百五十七號證の三、第二百五十八號證の一乃至第二百五十八號證の三、第二百五十九號證の一乃至第二百五十九號證の三、第二百六十號證の一乃至第二百六十號證の三、第二百六十一號證の一乃至第二百六十一號證の三、第二百六十二號證の一乃至第二百六十二號證の三、第二百六十三號證の一乃至第二百六十三號證の三、第二百六十四號證の一乃至第二百六十四號證の三、第二百六十五號證の一乃至第二百六十五號證の三、第二百六十六號證の一乃至第二百六十六號證の三、第二百六十七號證の一乃至第二百六十七號證の三、第二百六十八號證の一乃至第二百六十八號證の三、第二百六十九號證の一乃至第二百六十九號證の三、第二百七十號證の一乃至第二百七十號證の三、第二百七十一號證の一乃至第二百七十一號證の三、第二百七十二號證の一乃至第二百七十二號證の三、第二百七十三號證の一乃至第二百七十三號證の三、第二百七十四號證の一乃至第二百七十四號證の三、第二百七十五號證の一乃至第二百七十五號證の三、第二百七十六號證の一乃至第二百七十六號證の三、第二百七十七號證の一乃至第二百七十七號證の三、第二百七十八號證の一乃至第二百七十八號證の三、第二百七十九號證の一乃至第二百七十九號證の三、第二百八十號證の一乃至第二百八十號證の三、第二百八十一號證の一乃至第二百八十一號證の三、第二百八十二號證の一乃至第二百八十二號證の三、第二百八十三號證の一乃至第二百八十三號證の三、第二百八十四號證の一乃至第二百八十四號證の三、第二百八十五號證の一乃至第二百八十五號證の三、第二百八十六號證の一乃至第二百八十六號證の三、第二百八十七號證の一乃至第二百八十七號證の三、第二百八十八號證の一乃至第二百八十八號證の三、第二百八十九號證の一乃至第二百八十九號證の三、第二百九十號證の一乃至第二百九十號證の三、第二百九十一號證の一乃至第二百九十一號證の三、第二百九十二號證の一乃至第二百九十二號證の三、第二百九十三號證の一乃至第二百九十三號證の三、第二百九十四號證の一乃至第二百九十四號證の三、第二百九十五號證の一乃至第二百九十五號證の三、第二百九十六號證の一乃至第二百九十六號證の三、第二百九十七號證の一乃至第二百九十七號證の三、第二百九十八號證の一乃至第二百九十八號證の三、第二百九十九號證の一乃至第二百九十九號證の三、第三百號證の一乃至第三百號證の三、第三百一號證の一乃至第三百一號證の三、第三百二號證の一乃至第三百二號證の三、第三百三號證の一乃至第三百三號證の三、第三百四號證の一乃至第三百四號證の三、第三百五號證の一乃至第三百五號證の三、第三百六號證の一乃至第三百六號證の三、第三百七號證の一乃至第三百七號證の三、第三百八號證の一乃至第三百八號證の三、第三百九號證の一乃至第三百九號證の三、第四百號證の一乃至第四百號證の三、第四百一號證の一乃至第四百一號證の三、第四百二號證の一乃至第四百二號證の三、第四百三號證の一乃至第四百三號證の三、第四百四號證の一乃至第四百四號證の三、第四百五號證の一乃至第四百五號證の三、第四百六號證の一乃至第四百六號證の三、第四百七號證の一乃至第四百七號證の三、第四百八號證の一乃至第四百八號證の三、第四百九號證の一乃至第四百九號證の三、第五百號證の一乃至第五百號證の三、第五百一號證の一乃至第五百一號證の三、第五百二號證の一乃至第五百二號證の三、第五百三號證の一乃至第五百三號證の三、第五百四號證の一乃至第五百四號證の三、第五百五號證の一乃至第五百五號證の三、第五百六號證の一乃至第五百六號證の三、第五百七號證の一乃至第五百七號證の三、第五百八號證の一乃至第五百八號證の三、第五百九號證の一乃至第五百九號證の三、第六百號證の一乃至第六百號證の三、第六百一號證の一乃至第六百一號證の三、第六百二號證の一乃至第六百二號證の三、第六百三號證の一乃至第六百三號證の三、第六百四號證の一乃至第六百四號證の三、第六百五號證の一乃至第六百五號證の三、第六百六號證の一乃至第六百六號證の三、第六百七號證の一乃至第六百七號證の三、第六百八號證の一乃至第六百八號證の三、第六百九號證の一乃至第六百九號證の三、第七百號證の一乃至第七百號證の三、第七百一號證の一乃至第七百一號證の三、第七百二號證の一乃至第七百二號證の三、第七百三號證の一乃至第七百三號證の三、第七百四號證の一乃至第七百四號證の三、第七百五號證の一乃至第七百五號證の三、第七百六號證の一乃至第七百六號證の三、第七百七號證の一乃至第七百七號證の三、第七百八號證の一乃至第七百八號證の三、第七百九號證の一乃至第七百九號證の三、第八百號證の一乃至第八百號證の三、第八百一號證の一乃至第八百一號證の三、第八百二號證の一乃至第八百二號證の三、第八百三號證の一乃至第八百三號證の三、第八百四號證の一乃至第八百四號證の三、第八百五號證の一乃至第八百五號證の三、第八百六號證の一乃至第八百六號證の三、第八百七號證の一乃至第八百七號證の三、第八百八號證の一乃至第八百八號證の三、第八百九號證の一乃至第八百九號證の三、第九百號證の一乃至第九百號證の三、第九百一號證の一乃至第九百一號證の三、第九百二號證の一乃至第九百二號證の三、第九百三號證の一乃至第九百三號證の三、第九百四號證の一乃至第九百四號證の三、第九百五號證の一乃至第九百五號證の三、第九百六號證の一乃至第九百六號證の三、第九百七號證の一乃至第九百七號證の三、第九百八號證の一乃至第九百八號證の三、第九百九號證の一乃至第九百九號證の三、第百十號證の一乃至第百十號證の三、第百十一號證の一乃至第百十一號證の三、第百十二號證の一乃至第百十二號證の三、第百十三號證の一乃至第百十三號證の三、第百十四號證の一乃至第百十四號證の三、第百十五號證の一乃至第百十五號證の三、第百十六號證の一乃至第百十六號證の三、第百十七號證の一乃至第百十七號證の三、第百十八號證の一乃至第百十八號證の三、第百十九號證の一乃至第百十九號證の三、第百二十號證の一乃至第百二十號證の三、第百二十一號證の一乃至第百二十一號證の三、第百二十二號證の一乃至第百二十二號證の三、第百二十三號證の一乃至第百二十三號證の三、第百二十四號證の一乃至第百二十四號證の三、第百二十五號證の一乃至第百二十五號證の三、第百二十六號證の一乃至第百二十六號證の三、第百二十七號證の一乃至第百二十七號證の三、第百二十八號證の一乃至第百二十八號證の三、第百二十九號證の一乃至第百二十九號證の三、第百三十號證の一乃至第百三十號證の三、第百三十一號證の一乃至第百三十一號證の三、第百三十二號證の一乃至第百三十二號證の三、第百三十三號證の一乃至第百三十三號證の三、第百三十四號證の一乃至第百三十四號證の三、第百三十五號證の一乃至第百三十五號證の三、第百三十六號證の一乃至第百三十六號證の三、第百三十七號證の一乃至第百三十七號證の三、第百三十八號證の一乃至第百三十八號證の三、第百三十九號證の一乃至第百三十九號證の三、第百四十號證の一乃至第百四十號證の三、第百四十一號證の一乃至第百四十一號證の三、第百四十二號證の一乃至第百四十二號證の三、第百四十三號證の一乃至第百四十三號證の三、第百四十四號證の一乃至第百四十四號證の三、第百四十五號證の一乃至第百四十五號證の三、第百四十六號證の一乃至第百四十六號證の三、第百四十七號證の一乃至第百四十七號證の三、第百四十八號證の一乃至第百四十八號證の三、第百四十九號證の一乃至第百四十九號證の三、第百五十號證の一乃至第百五十號證の三、第百五十一號證の一乃至第百五十一號證の三、第百五十二號證の一乃至第百五十二號證の三、第百五十三號證の一乃至第百五十三號證の三、第百五十四號證の一乃至第百五十四號證の三、第百五十五號證の一乃至第百五十五號證の三、第百五十六號證の一乃至第百五十六號證の三、第百五十七號證の一乃至第百五十七號證の三、第百五十八號證の一乃至第百五十八號證の三、第百五十九號證の一乃至第百五十九號證の三、第百六十號證の一乃至第百六十號證の三、第百六十一號證の一乃至第百六十一號證の三、第百六十二號證の一乃至第百六十二號證の三、第百六十三號證の一乃至第百六十三號證の三、第百六十四號證の一乃至第百六十四號證の三、第百六十五號證の一乃至第百六十五號證の三、第百六十六號證の一乃至第百六十六號證の三、第百六十七號證の一乃至第百六十七號證の三、第百六十八號證の一乃至第百六十八號證の三、第百六十九號證の一乃至第百六十九號證の三、第百七十號證の一乃至第百七十號證の三、第百七十一號證の一乃至第百七十一號證の三、第百七十二號證の一乃至第百七十二號證の三、第百七十三號證の一乃至第百七十三號證の三、第百七十四號證の一乃至第百七十四號證の三、第百七十五號證の一乃至第百七十五號證の三、第百七十六號證の一乃至第百七十六號證の三、第百七十七號證の一乃至第百七十七號證の三、第百七十八號證の一乃至第百七十八號證の三、第百七十九號證の一乃至第百七十九號證の三、第百八十號證の一乃至第百八十號證の三、第百八十一號證の一乃至第百八十一號證の三、第百八十二號證の一乃至第百八十二號證の三、第百八十三號證の一乃至第百八十三號證の三、第百八十四號證の一乃至第百八十四號證の三、第百八十五號證の一乃至第百八十五號證の三、第百八十六號證の一乃至第百八十六號證の三、第百八十七號證の一乃至第百八十七號證の三、第百八十八號證の一乃至第百八十八號證の三、第百八十九號證の一乃至第百八十九號證の三、第百九十號證の一乃至第百九十號證の三、第百九十一號證の一乃至第百九十一號證の三、第百九十二號證の一乃至第百九十二號證の三、第百九十三號證の一乃至第百九十三號證の三、第百九十四號證の一乃至第百九十四號證の三、第百九十五號證の一乃至第百九十五號證の三、第百九十六號證の一乃至第百九十六號證の三、第百九十七號證の一乃至第百九十七號證の三、第百九十八號證の一乃至第百九十八號證の三、第百九十九號證の一乃至第百九十九號證の三、第二百號證の一乃至第二百號證の三、第二百一

ハ被告ハ此判決ニ對シ故障ヲ申立ツルノ權アリ

故障申立ノ期間ハ十四日トス此期間ハ不可變期間ニシテ且懈怠判決書ノ送達ヲ以テ始マル

其故障申立ハ判決ノ送達前ト雖モ之ヲ為スヲ得

送達カ外國ニ於テ為サルヘキ又ハ公ケノ告示ヲ以テ為サルヘキトキハ裁判所ハ懈怠判決中ニ故障期間ヲ定メ又ハ口頭辯論ヲ經スシテ為スヲ得ル特別ノ決定ヲ以テ之ヲ定ムルヲ要ス

（修正ノ理由）本條第一項ヲ二項ニ分チ闕席トアルヲ懈怠ト改メ不可變云々ヲ加ヘ又ハ壹項ヲ挿入シ其他末項中ニ又ハ云々ノ數字ヲ加ヘ闕席トアルヲ懈怠トナシ二ヶ所ニテトアルヲ中ニトナシ又ハトアルヲ得ルト改メタルハ期日期間ノ節ヲ始メ修正ヲ加ヘ來リタル結果ナリ



（第四百四條第三百五）

第二百五十二條　故障ノ申立ハ懈怠判決ノ為シタル裁判所ニ書面ヲ差出シテ之ヲ為ス

其書面ニハ左ノ諸件ヲ掲クルヿヲ要ス

第一　故障ノ申立ヲ受クル懈怠判決ノ表示

第二　此判決ニ對シ故障ヲ申立ツルヿノ陳述

其書面ニハ本事件ニ付テノ口頭辯論ノ準備

ノ為メ必要ナル事項ヲモ掲クベシ

（修正ノ理由）第一項ノ修正ハ書面ヲ差出スヘキ裁判所ヲ明カニシタルモノナリ第一号中関席ヲ懈怠ト改メタルハ例ニ従フ末項中若シ原告又ハ被告ヨリ準備書面ヲ差出シ若シ出ハリニ十三字及ヒ亦ノ一字ヲ削リ掲クルハ削除シタルハ其必要ヲ掲クベシヲ見サレ

旧第四百五條（削除）ニ付テハ別イルムスキヨト改メ以下ヲ削除シタルハ其必要ヲ掲クベシヲ見サレ

（削除）ニ付テハ別イルムスキヨリ之ヲ削除スヘキ勧告アルノミナラス之ヲ置クノ必要ヲ見サレハナリ



第二百五十三條

障申立ノ書面カ差出サレタルハ裁判所ハ故障申立ノ書面カ差出サレタルハ裁判所ハ之ヲ相手方ニ送達シ且故障ニ付キ以下原文ノ儘

（修正ノ理由）前條ハ場合ヲ除クハ外ノ十字ヲ削リ本文ノ如ク修正シタルハ前條ヲ削除セシ結果ナリ

民事訴訟法草案議案第十九号

第二百五十四條（原文ノ儘）

第二百五十五條　故障カ適法ナル中ハ訴訟ハ懈怠前ニ在リシ程度ニ復セラル

（修正ノ理由）闕席ノ二字ハ例ニ從ヒ懈怠ニ改ムアリシ前ハトアルヲ前ニ在リシト為シタルハ句調ヲ改メタルマテナリ

第二百五十六條　新辯論ニ基キ為スヘキ判決カ懈怠判決ト符合スルトキハ此判決ヲ維持スルヲ言渡シ其符合セサル場合ニ於テハ新判決ニ於テ懈怠判決ヲ廢止ス

（修正ノ理由）原文中事件其モノニ於テハ八字及ヒ包含セラルル裁判ノ十字ヲ

削リ發ヲ為ニ改メ裁判ナル二ケ所ヲ判決ニ改メ關席トアル箇所ヲ懈怠ト改メタル

然ラサルトアルヲ箇合セサルト改メタルハ先例ニ從ヒ且文意ヲ明カニセシマテナリ

第二百五十七條

タル懈怠判決カ法律ニ從ヒ為サレタル費用（以下原文ノ儘ニ因テ生シ懈怠ト改ム）

（修正ノ理由）

文ノ如ク數字ヲ加ヘタルハ懈怠判決ヤ適法ナル件ニ限ル意味ヲ加フヘキ旨ヲ注ル

ンスタイン氏ノ勧告アリシ故ニ之ヲ採用シタリ



第二百五十八條

被告ヤ口頭辯論ノ期日又ハ辯論ヲ延期セラレタル期日ニ出頭セサル件ハ第二百四十八條ノ規定ニ觸レサル限リハ出頭シタル相手方ノ申立ニ因リ故障ヲ棄却スル懈怠判決ヲ言渡ス

此懈怠判決ニ對シテハ故障ヲ申立ツルヲ得ス

（修正ノ理由）

第一項中新期日トアル新ノ一字ヲ削リ又ハ云々ノ數字ヲ加ヘ四百條ハ理由ハ一トアルヲ二百四十八條云々ニ改ノ故障ヲ棄却シ前裁判ヲ維持シテ新關席判決ヲ言渡ストアルヲ本文ノ如ク改メ

タルハ前數條ヲ修正シタル所ニ基キタリ

第二百五十九條 第二項モ同断

第二百六十條 既ニ確定シタル請求ノ數額ノ定ヲ目的物トスル訴訟ヲ續行スル結果ニ基キ訴訟ヲ為ス場合ニ於テハ控訴ノ抛棄及ヒ其取下ニ付テノ規ヲ準用ス

（新設ノ理由）本條ハ是マテ修正シ來リタル結果ニテ必要ナル條項ニ付独訴訟法ニ



判決ハ此中間争訟ヲ完結スルニ止ラス又ハ此節ノ成規ニ準用ス

此節ノ成規ニ準用ス

（新設ノ理由）前條ノ理由ニ同シ

旧第四百十二條 （削除）

旧第四百十三條 同断

旧第四百十四條 同断

旧第四百十五條 同断

（削除ノ理由）右ノ四條ハ総則中ニ原状回復ノ節ヲ設ケタルヲ以テ之ヲ削ル

第四節 採證總則

旧第二百五十八條 （削除）

旧第二百五十九條 同断

旧第二百六十條 同断

旧第二百六十一條　削除
旧第二百六十二條　同断
旧第二百六十三條　同断

削除ノ理由

既ニ第二百十四條ニ之ヲ設ケ旧第二百六十八條ハ十二條ハ第二百十七條ニ之ヲ置キ其他四ヶ條ハ民法草案第千三百十四條以下千三百二十五條マテ設定セラレシニ付キ之ヲ削除ス

右数條中旧第二百六十八條ハ

民事訴訟法草案議案第二十号

旧第二百六十四條　削除

旧第二百六十五條　同断

旧第二百六十六條　同断

旧第二百六十七條　同断

（削除ノ理由）

右数條ヲ削リタルハ民法草案第千三百六十三條以下千三百六十九條ニ定メアルヲ以テナリ

旧第二百六十八條　削除

（削除ノ理由）

本條ハ已ニ第二百十六條及ヒ第百十六條ニ規定シタシレハナリ

以下数條採證総則ノ一節ハ独逸訴訟法ニ準據シ條項ノ順序ヲ改メ且新條ヲ加ヘタル故

（旧民訴三百六十一条 旧刑訴三百三十）

第二百六十一條　採證ハ受訴裁判所ニ於テ之ヲ為スヲ通例トス

採證ハ此法律ニ定メタル場合ニ限リ受訴裁判所ノ部員一名ニ命シ又ハ区裁判所ニ之ヲ嘱託スルヲ得

前項ニ従ヒ採證ヲ命スル決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルヲ得ス

（旧民訴三百六十二条 旧刑訴三百三十一）

第二百六十二條　原告被告ノ申立テタル數多ノ證拠中採ルヘキ程度ハ裁判所之ヲ定ム

原告被告ノ演述ニ次キ直チニ採證ヲ為サスシテ受訴裁判所ニ於テ新期日ニ之ヲ為シ又ハ受命判事若クハ受託判事ノ面前ニ於テ之



ヲ為スヘキ日ハ採證決定ニ因リ採證ヲ命スルヲ要ス

（旧民訴三百六十三条 旧刑訴三百三十二）

第二百六十三條　採證ニ付キ時間ノ不定ナル障碍アル日ハ申立ニ因リ相當ノ期間ヲ定ムルヲ要ス若シ此期間ヲ徒過セシメタル日ハ訴訟手續ヲ遅滞セシメサル日ニ限リ其擧證方法ヲ用ユルヲ得

（旧民訴三百六十四条 旧刑訴三百三十三）

第二百六十四條　採證決定ニハ左ノ諸件ヲ具備ス

第一　證スヘキ係爭事實ノ表示

第二　擧證方法ノ表示殊ニ證人又ハ鑑定人ヲ訊問スヘキ日ハ其氏名、身分、職業及ヒ住所

第三　擧証方法ヲ申出テタル原告若クハ被

告ノ氏名

第二百六十五條　採證決定ノ変更ハ其決定ノ完結前ニ於テハ原告又ハ被告ヨリ以前ノ辯論ニ基キ之ヲ申立ツルヲ得ス

第二百六十六條　採證カ受訴裁判所ノ職權ヲ以テ之ヲ採證決定ノ執行ハ職權ヲ為ス

第二百六十七條　判長ハ受命判事其他ノ部員ヲ期日ニ於テ採證ヲ為サシムルヘキ旨ヲ指名シ且採證決定ヲ言渡ス際裁判長ハ他ノ部員ニ採證ノ期日ヲ定ムルヘキ旨ヲ定ム



採證ニ關スル審問書ハ原本ニテ受託判事ヨリ受訴裁判所書記ニ之ヲ送致シ裁判所書記ハ其受領シタルヲ原告被告ニ通知スルヲ要ス

第二百六十八條　受命判事又ハ受託判事採證ノ期日ヲ定メタルトキハ之ヲ原告被告ニ通知スルヲ要ス

第二百六十九條　外國ニ於テ為スヘキ採證ハ外國ノ管轄官廳又ハ其國駐劄ノ本邦ノ公使若シクハ領事ニ囑託シテ之ヲ為ス其囑託書ニハ第百五十一條及ヒ第百五十三條ノ規定ヲ準用ス

第二百七十條　受命判事又ハ受託判事ハ他ノ

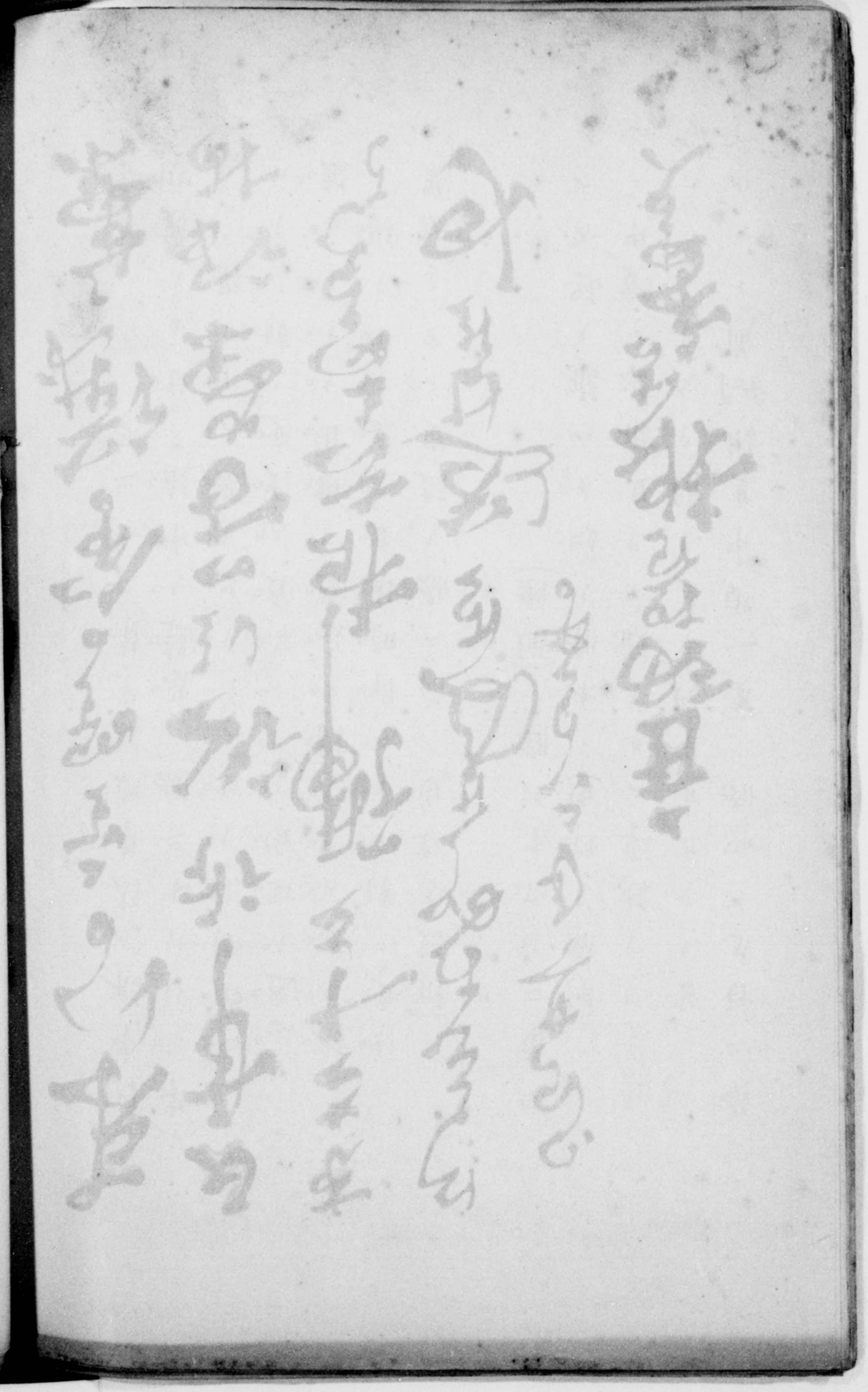
第二百七十一條

前ニ於ケル採證ニ受命判事又ハ受託判事ノ面前ニ於テ其ノ

タ取リ規陪百旨十削訴訟
ル リ其定ス四三九陪スル多
モ法他中又ナル條及ヘ繼
ノ又ノニ旧五ツェノヒノ
ナヲ修包第分ン第修遲滯
リ明正合ニヲスー正
カハス百置タ項ノヲ
ニ総ルハキイハ理生
シテモナタシロ也セ
且独ノ條ル代頭サ
手逸トハ結ノ辯本ル
続訴シ弗果意論節場
ヲ訟テニニ見ノ中合
綿法之百テア原旧ニ
密ノヲナ本リ刷第限
ニ精削四條且ニ二リ
ナ神リ條ヲ弟背百採
シヲタノ削二リ七證



サ得採ニ百期其六ノ間ヲ條裁ル明丙
ス若證ル定期ノ日ノ時ス判ノノハセ
但シノセ期ノ日ノ原終ヲニヘ事期其十
期其貫十原終ヲニヘ事期其十
間期用六告綴定受キ天日採五
ノ間ヲ條裁シムム訴ハナ證條
滿丙準告ヒリ裁ヲ受リ期
了ニ證裁ニルフ判令託トヒ受
後豫若判通後ヲ所シ判スハ訴
トル納ヲ所知職得ニタ事同裁
雖セリハスル權若於ルノ時判
モサ豫相ヘヲシヤ床面ニ所
豫ル納當シスそのルハ前口ニ
納床セノ ヲ定ロ其ニ頸於
シハシ期其メ頸採於韓ヲ
タ採ム間期サ辯證ヲ論採
ル證ルヲ日ルル論決採ヲ證
床ヲ丁定床ヲ綏定證續ヲ
ハ為ヲノ定ハ行中ヲ行為



民事訴訟法草按議案第二十二号

第二百九十三條　忌避ノ申請ニ付テノ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ為スヿヲ得

忌避ヲ理由トスル言渡ス決定ニ對シテハ上訴ヲ為スヿヲ得ス忌避ヲ理由トシト言渡ス決定ニ對シテハ即時抗告ヲ為スヿヲ得

（新設ノ理由）前二條ヲ設定シタル結果ナリ

旧第二百九十六條（削除）

（削除ノ理由）本條ノ如キハ訴ヲ起スヘキヿヲ誘導スルノ嫌アリ且訴訟手續中ニ必要ナラサルヲ以テ之ヲ削リタリ

第二百九十四條（第一項中其訊問前トアル下

ニ各別ノ二字ヲ加ヘ其餘ハ原文ノ儘

（第二項中「疑惑」トアル「惑」ノ一字ヲ削リ「中止」ト改メ而シテ左ノ一項ヲ新設ス）

原告被告ハ證人ノ宣誓ヲ拒棄スルヲ得

（修正ノ理由）第一二項ハ解シ易カラン丁ヲ慮リタルマテナリ末項ヲ加ヘタルハ独法ニ倣ヒ拏證者ニ於テ宣誓ヲ為サシメス證人ノ訊問ヲ受クルヲ得ルノ便宜法ヲ設ケタルモノナリ

第二百九十五條　證人ハ訊問前ニ宣誓ヲ為スヘキ場合ニ於テハ良心ニ從ヒ真実ヲ述ヘ何事ヲモ黙秘セス又何事ヲモ附加セサルヲ誓ヲ為スヲ要ス

（修正ノ理由）第一項第二項トモ冒頭ノ「證人ハ訊問」トアル下ヲ削リ本文ノ如ク改メタルハ本條ノ精神ヲ明カニシタルモノナリ



第二百九十六條　宣誓ヲ為ス前トアル下裁判官ハ其餘ハ原文ノ儘

（修正ノ理由）本修原文ノ儘ニテハ何人カ論示スルノ意カ判然セサルノ嫌アルヲ以

テナリ

第二百九十七條宣誓ヲ拒ム證人ニ付テハ第二百八十八條乃至第二百九十條ノ成規ヲ適用スル

（修正ノ理由）原文冒頭ノ「證人タルハ」ノ五字及ヒ宣誓ヲ拒ムノ下「ミタル者ニ對シ」ノ七字ヲ削リ九十三條トアルヲ八十八條ニ改メ九十五條トアル五ノ一字ヲ削リ成規トアル以下ヲ削リ本文ノ如ク改メタルハ前數條ヲ修正シタル結果ニシテ且文意ヲ明カニセンモノナリ

第二百九十八條左ノ者ハ宣誓ヲ為サシメス

第一（原文ノ儘）

第二（原文ノ儘）

第三（原文ノ儘）

第四 第二百八十五條及ヒ第二百八十六條ノ第三号並ニ第四号ノ規定ニ依リ證據ヲ述フルヿヲ拒絶スルノ權アル人ニシテ此權利ヲ行用ヒサルモノ但第二百八十六條第三号並ニ第四号ノ場合ニ於テハ拒絶ノ權利ニ關スル事實ニ付キ申立テラレタル限リニ

第五 爭訟ノ成蹟ニ直接ノ利害關係ヲ有スル者

（修正ノ理由）宣誓ヲ為サシメサレ氏參

考ノ為メトアル下「サイ氏参考ハ為メ」ノハ字ヲ削リ本文ノ如ク改メタルハ参考ト云フヲ必要トセサレハナリ又第四号ヲ修正シタルハ前数條ヲ修正シタル結果ナリ第五号ハ必要ノ事項ト認メ獨法ニ倣ヒ新タニ之ヲ差加ヘタリ

（原文ノ儘）

第二百九十九條（第二百八十九條）

第三百條（第二百九十八條）

証人ノ訊問ハ証人ニ其氏名、年齢、身分、職業、宗旨及ヒ住居ヲ問フヲ以テ始マル

又必要ナル場合ニ於テハ其事件ニ於ケル信否ニ関スル情況特ニ原告被告トノ関係ニ付テノ問ヲ為スヲ可シ

（修正ノ理由）

原文中「其」ハ身上ハ関係ニ依



テハ必要ナル問ノ十六字「ハ証人ニ提出シ」ノヒ字及ヒ「之ニ提出ハ以テ始マル」ノ十二字ヲ削リ本文ノ如ク改メタルハ文意ヲ明カニセシメテナリ

（原文ノ儘）

第三百一條（第二百九十九條）

証人ハ其供述ノ稿本ヲ朗讀シ又ハ其他ノ覚書ヲ用ユルヿヲ得ス但算數ノ関係ニ限リ其覚書ヲ用ユルヿヲ得

（修正ノ理由）

原文中証人ノ下「ニ」ノ一字及ヒ「訴サイ又証人、、、、但証人ハ」ニ至ル六十三字ヲ削リタル外文言殷ノ直ヲ「ニ」ノ三字ヲ削リタルハ必要ヲ見サレハナリ依テ本文ノ如ク改メタリ

（第三百六条 旧第三百六十五条 ノ第三 旧ノ第三百六十三）

第三百三條

（第一項ハ原文ノ儘）

（第二項中得ストアル下「原告被告ハ供述」トアルヲ然シ此原告被告ハ證人ノ供述ト改メ「ヲ」要ス」トアルヲ「得」ト改ム）

（第三項中「デハ疑」トアルヲ「キ異議アル時」ト改ム）

（修正ノ理由）本條ノ精神ヲ明カニセシマテナリ

（第三百七）

第三百四條

調書ニハ證人ヲ其訊問セラルヽノ前若クハ後ニ宣誓シタルヤ又ハ宣誓セスシテ訊問セラレタルヤヲ明記スルヿヲ要ス」

（第二項第三項削除）

（修正ノ理由）第一項ノ冒頭「各證人ハ供述



ハ完全ニ之ヲ調書ニ記載シ且」トアル十九字ハ必要ヲ見サルノミナラス又テ重複スルノ嫌アリ何ニトナレハ第百二十九條ノ第三號ハ證人ノ供述ヲ全部ヲ筆記スルノ精神ナレハナリ依テ本文ノ如ク改ム又第二項ハ第百三十條ニテ足レリトスルヲ以テ之ヲ削リ第三項モ總則ニアルヲ以テ同断之ヲ削ル

（旧第三百八 旧第三百六十 ノ第一項）

第三百五條

受訴裁判所ハ其意見ヲ以テ證人ノ再訊問ヲ命スルヿヲ得

（第一號乃至第四号ハ削除）

（修正ノ理由）第一号乃至第四号ヲ掲ケテ再訊問ノ場合ヲ明示シタリト雖モ是ニテ

再訊問ヲ要スル場合ヲ盡セリト謂ヒカタシ故ニ此列記ヲ廢シ冒頭ニ「受訴」ノ二字ヲ加ヘ「左ハ場合ニ於テハ」ノ八字ヲ削リ「其意見ヲ以テ」ノ六字ヲ加フ

第三百六條　左ノ場合ニ於テ人證ヲ採ルヿハ受訴裁判所ノ部員一名ニ命シ又ハ區裁判所ニ之ヲ囑託スルヿヲ得

第一　原文ノ儘

第二　證人カトアル下「疾病又ハ其他ハ事由ハ為メ」ノ十二字ヲ削ル

第三　原文ノ儘

末項中所在地トアル「地」ノ一字ヲ削リ其餘ハ原文ノ儘



（修正ノ理由）第一項原文中「事」ノ二字及ヒ「人」證ヲ採ル下ヲ委任ス」ノ十字ヲ削リ本文ノ如ク修正シタルハ先例ニ倣フ第二号中疾病云々ハ必要ナラサルヲ以テ之ヲ削リタリ末項ノ「地」ノ一字ヲ削リタルハ先例ニ倣フ

民事訴訟法草案議案第二十三号

第三百七條（第三百十 第三百六十五）

第一項中第二百八十七條トアルヲ第二百八十二條ト改メ第二百八十八條ヲ第二百八十三條ト改メ第二百九十條ト改メ第三百條ヲ第二百九十七條ト改ム其餘ハ原文ノ儘

第二項ハ原文ノ儘

第三項ハ原文ノ儘

第四項中「第三百八條ハ場合ニ於ケル」ノ十二字ヲ削リ「ヨリ特立シ」ノ五字ヲ點意見ヲ「ト」ト改ム

（修正ノ理由）

前數條ヲ修正シ来リタル結果ナリ

第三百八條（原文ノ儘）

第三百九條（第一項ノ末段直チニトアル下ヲ「其金額ノ拂渡ヲ求ムルヿヲ得」ト改ム）

（第二項第三項ハ削除）

（修正ノ理由）本條第一項ハ證人ノ費用ニシテ原被告ノ費用ト自ラ異ナル故第八十三條第八十四條ニ基キカタシ依テ本文ノ如ク修正ス

第二項第三項ハ必要ナラス就中不服ヲ許サヽルノ点ニ對シテハ「シュル」ヲ「スメイン」ヨリ之ヲ許サヽルノ理由ナシトノ意見アリ又第三項ノ如キハ第二百七十六條ノ規定ニテ足リトス



第三百十條（第三百十條ノ次ニ第三百十條ノ次ニ）

第六節　鑑定人ニ因レル證據

第三百十條（冒頭ノ「申立ニ因リ又ハ職權ニ依テ決定セラルヽ」ノ十九字ヲ削リ以下原文ノ儘）

（削除ノ理由）原文ノ申立ニ因リ云々ノ數字ハ必要ヲ見サルニ付之ヲ削リタリ

第三百十一條（第三百十一條ノ次ニ）

欲スル原告又ハ被告ハ鑑定ス可キ事項ヲ申立ツルヿヲ要ス

（第二項第三項ハ削除）

（修正ノ理由）第一項原文中「適當ハ人」トアル語ハ民法草案ノ精神ト抵觸スルノ恐レアル故之ヲ削リ「鑑定ス可キ事項」ト改ム又

第二項第三項ハ民法草案第千三百二十七條ニ規定アルヲ以テ之ヲ削除ス

第三百十二條　左ノ者ハ鑑定ヲ命セラレタル時ハ之ニ從フノ義務アリ

第一　（原文ノ儘）

第二　（第二号中「此學識若クハ技術ニ從事スル」ノ十三字ヲ削リ「之カ」ノ二字ニ改ム其餘ハ原文ノ儘）

（修正ノ理由）　前文ニ鑑定人タルノ義務アリトアルマテニテハ如何ナル場合カ判然ナラサルノ嫌アルヲ以テ「人カ」ノ四字ヲ削リ本文ノ如ク改メ又第二ノ原文中此學識云々ヲ之カト改メタルハ文意ヲ簡明ニシタルモノナリ

第三百十三條　（第一項ハ原文ノ儘）

（第二項中「公ノ役員」トアルヲ「公ノ吏員」ト改ム其餘ハ原文ノ儘）

裁判所ニ於テ鑑定ヲ為サシムルトスル旨ヲ述ヘタル者ハ本條第一項ノ場合ヲ除クノ外鑑定ヲ為スノ義務アリ

（修正ノ理由）　第二項ハ先例ニ倣ヒタリ第三項中「又ハ判事ハ面前ニ於テ」ノ十字又ハ「鑑定人カ」ノ義務ナキトキ雖モ」ノ十四字及ヒ「規定ヲ留保シテ再ヒ之ヲ拒ムヲ得」ノ十七字ヲ削リ本文ノ如ク改メタルハ文意ヲ明瞭ニシタルマテナリ

第三百十四條（本條ノ末段「過料」トアルヲ「罰金」ト改メ「引致」トアルヲ「勾引」ト改ム其餘ハ原文ノ儘）

旧第三百十八條（削除）（修正ノ理由）先例ニ倣ヒタルモノナリ

（削除ノ理由）民法草案第千三百二十九條中ニ明文アルヲ以テ之ヲ削リタリ

第三百十五條（前文原文ノ儘）

第一（原文ノ儘）

旧第二（削除）

第二。（旧第三ヲ第二。ト改メ其以下原文ノ儘）

旧第四（削除）（修正ノ理由）旧第二旧第四ハ民法草案第



千三百三十一條中ニ規定アルヲ以テ之ヲ削リタリ

第三百十六條（本條中第三百十四條トアルヲ第三百十一。條ニ第三百十九條トアルヲ第三百十五。條ニ改メ「第二号」トアル五字ヲ削リ其餘ハ原文ノ儘）（修正ノ理由）前數條ヲ修正シタル結果ナリ

第三百十七條（第一項ハ原文ノ儘第二項中第三百十二條トアルヲ第三百九。條ト改メ其餘ハ原文ノ儘）（修正ノ理由）前條ノ理由ト同断

第三百十八條（原文ノ儘）